



遠絡統合医学

Dコースセミナー

下位中枢性疾患の理論と臨床

講師：柯尚志医師（遠絡医学創始者）

第1日目（全4日間）

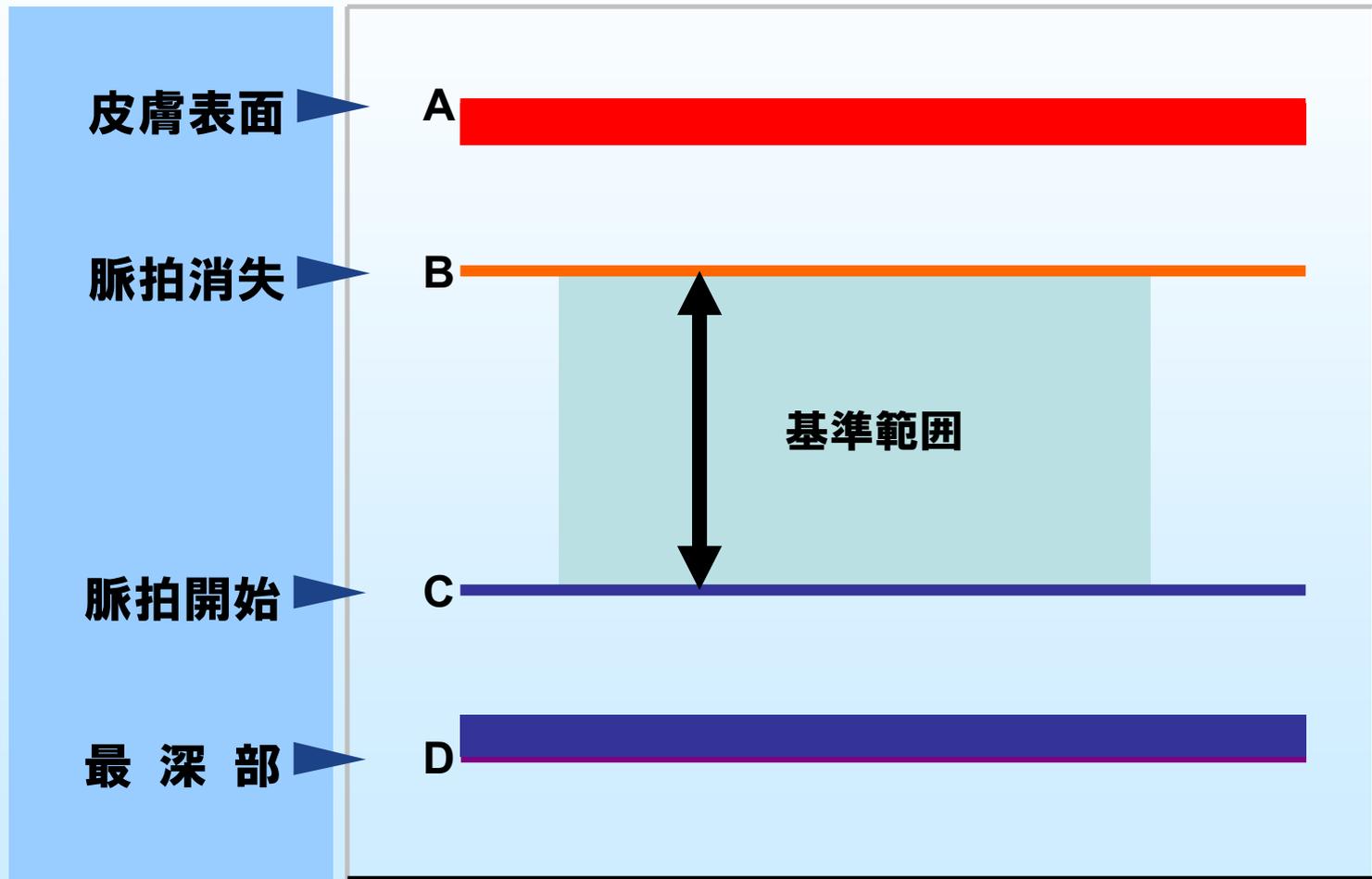
JMAI

一般社団法人 日本遠絡統合医学会

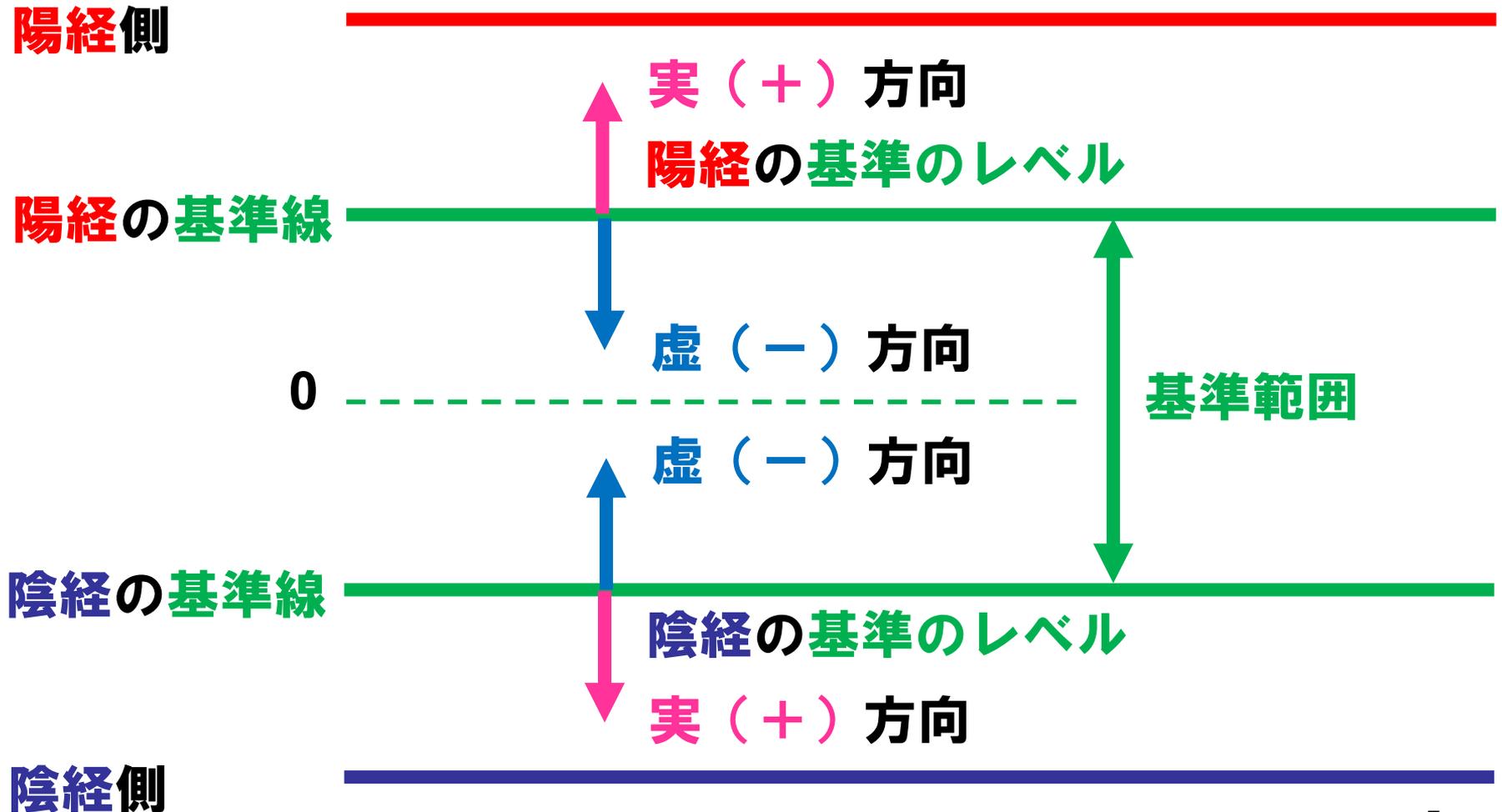
十二經脈變化論

陽・陰 実・虚

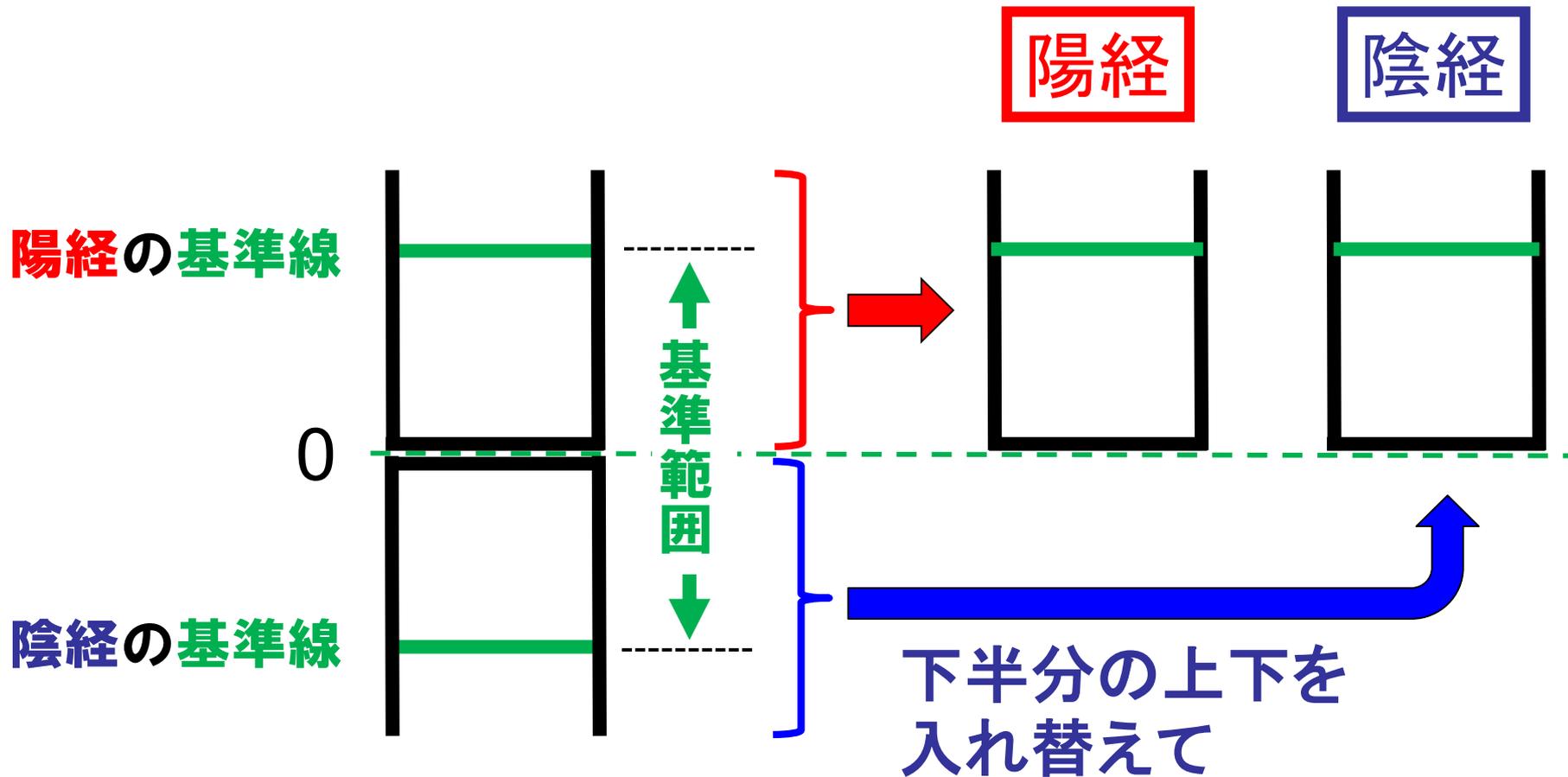
脈診の時：正常基準範囲



陽経・陰経共に正常（基準状態）



陽経・陰経共に正常（基準状態）

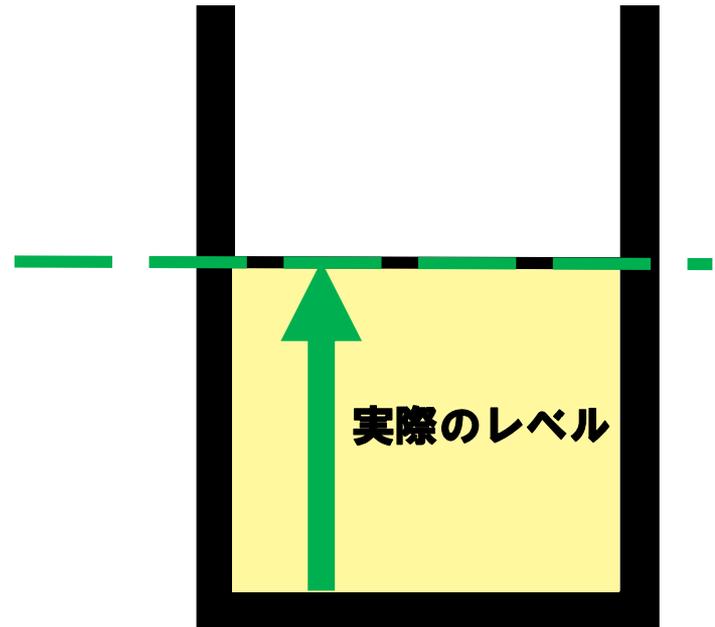
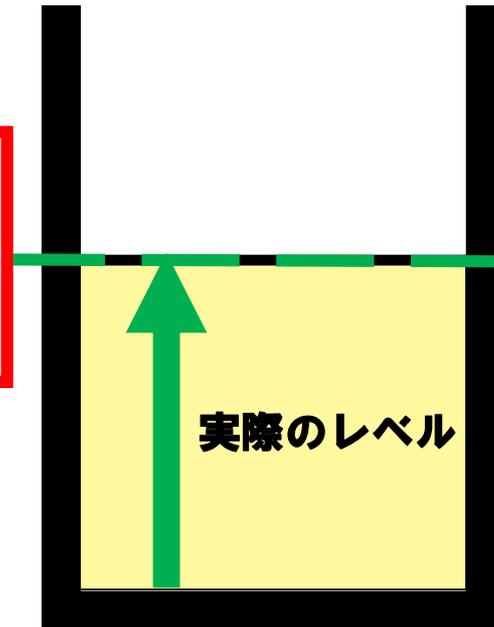


陽経・陰経共に正常（基準状態）

陽 経

陰 経

陽経及び陰経の
基準ライン
(正常)



実と虚

陽経側



陽経の実際のレベル (実)



陽経の基準線



陽経の実際のレベル (虚)



陰経の実際のレベル (虚)



陰経の基準線



陰経の実際のレベル (実)

陰経側

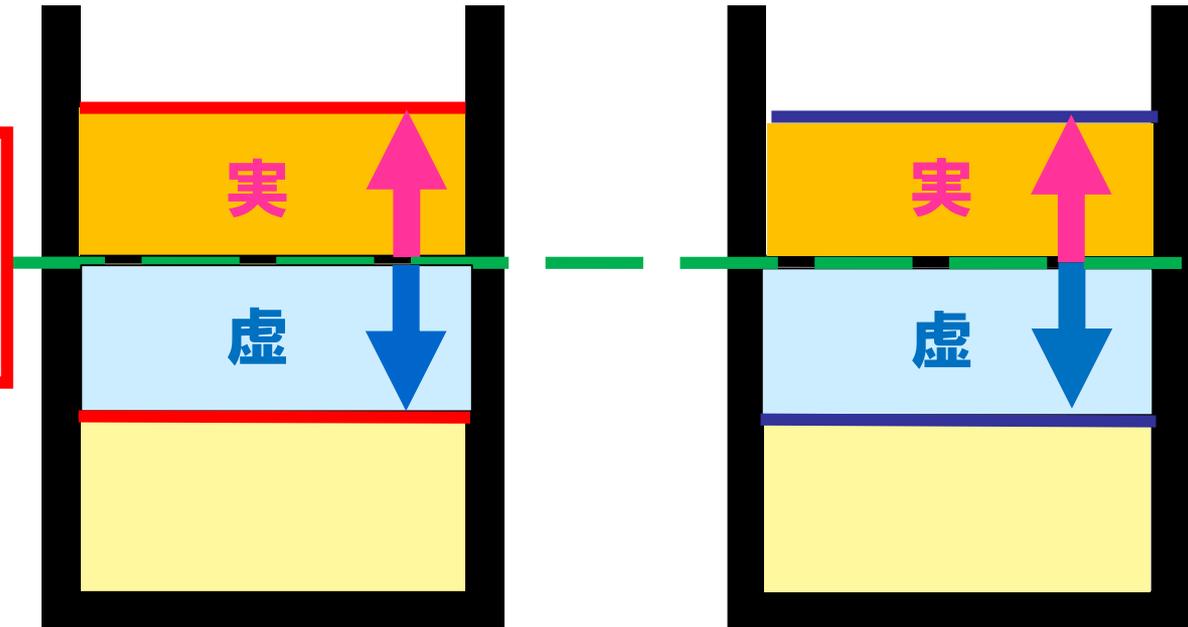


実と虚

陽 經

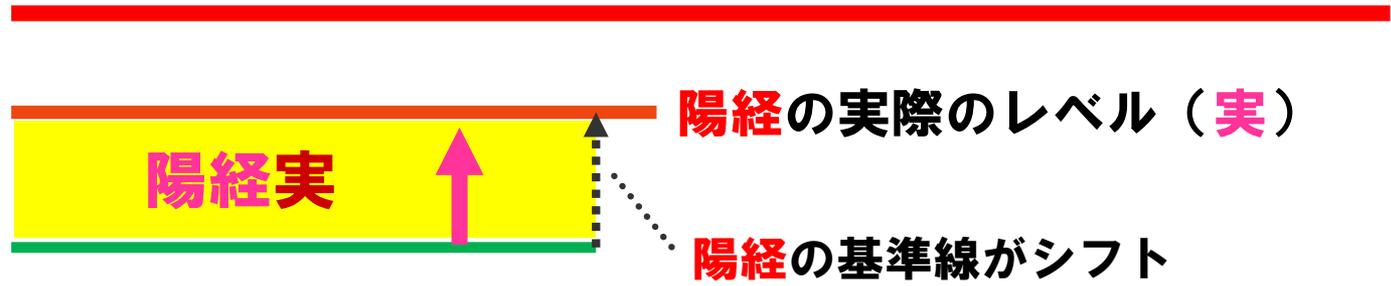
陰 經

陽經及び陰經の
基準ライン
(正常)



陽経実 & 陰経正常の相対的陰経虚

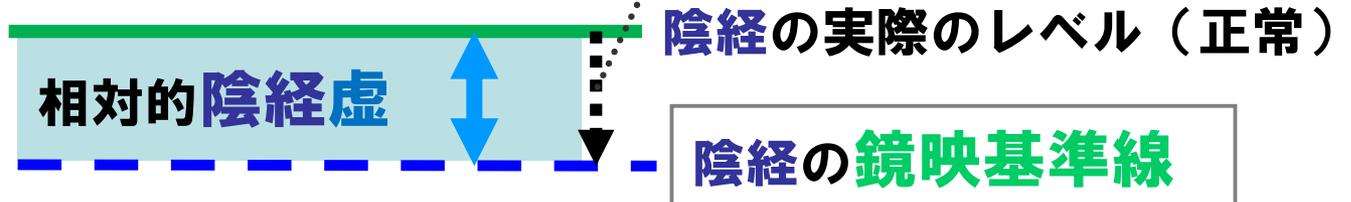
陽経側



陽経の基準線

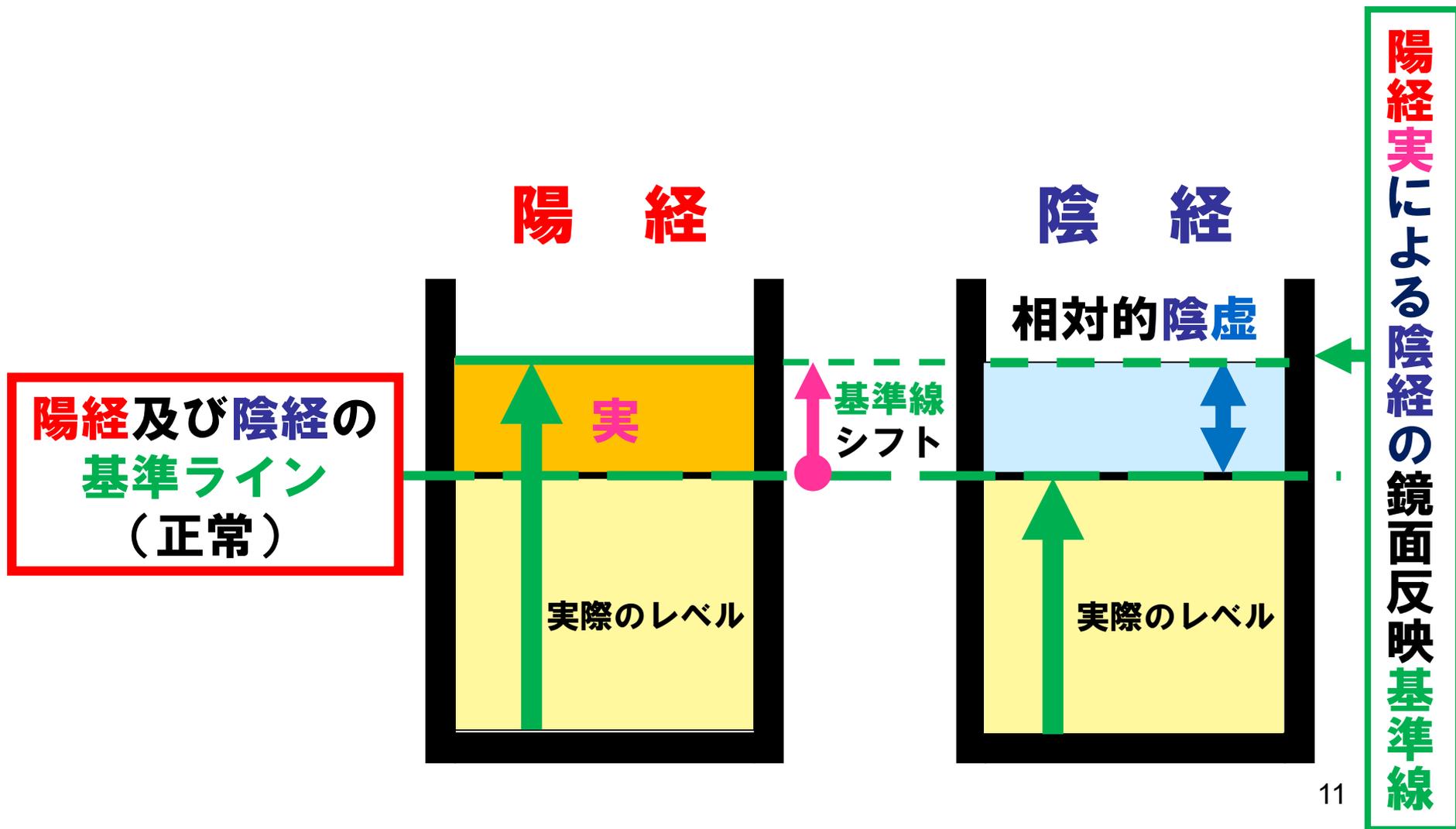
陽経・実による陰経
基準線の鏡面反映

陰経の基準線



陰経側

陽経実 & 陰経正常の相対的陰経虚



陽経正常 & 陰経虚の相対的陽経実

陽経側

陽経の基準線

陽経の鏡映基準線

相対的陽経実

陽経の実際のレベル（正常）

陰経・虚による
陽経基準線の鏡面反映

陰経の基準線

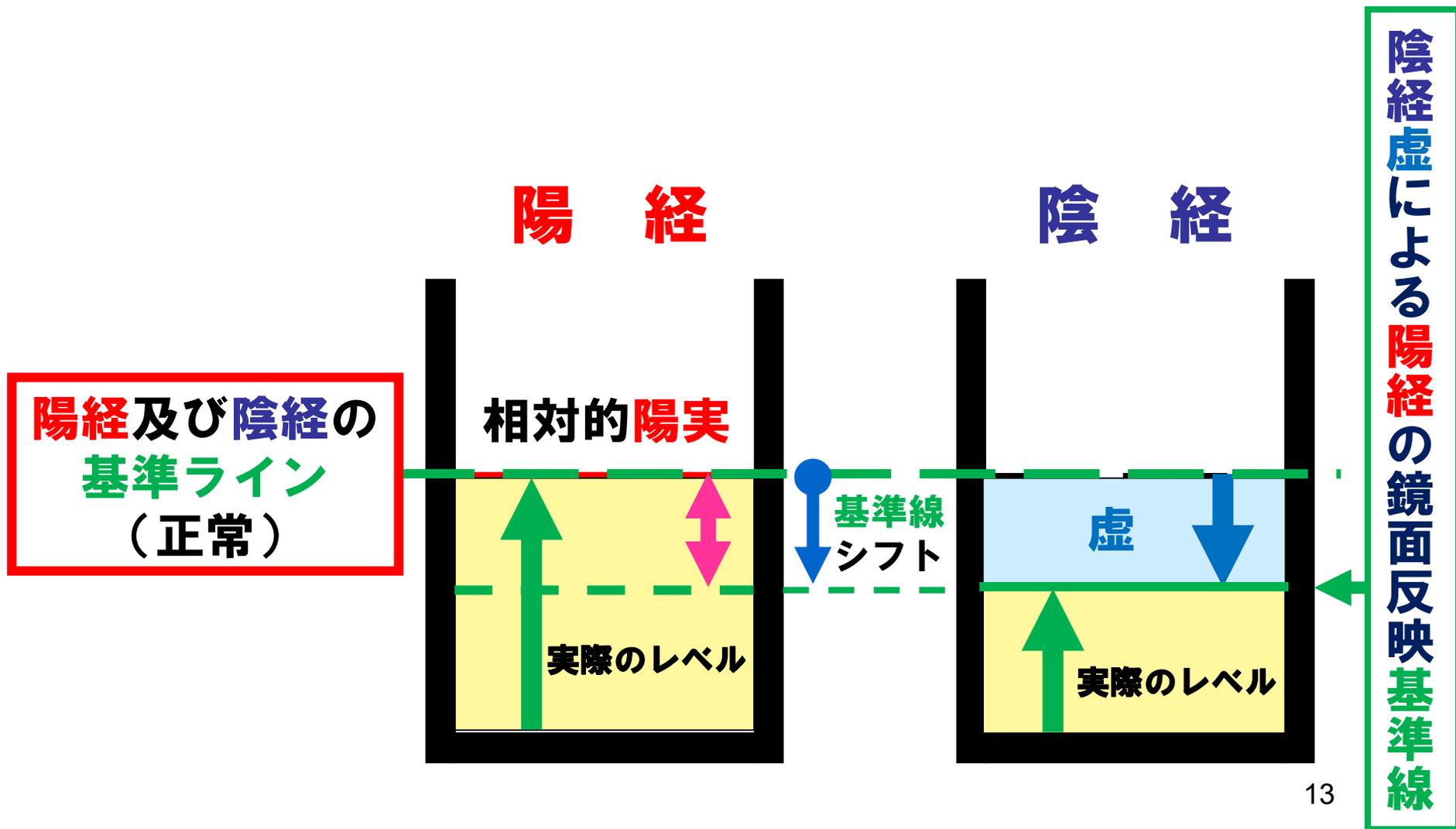
陰経虚

陰経の実際のレベル（虚）

陰経の基準線がシフト

陰経側

陽経正常 & 陰経虚の相対的陽経実



副交感神経機能低下に伴う 交感神経の相対的機能亢進

陽経側

交感神経の基準線

相対的交感神経 実

交感神経の
実際のレベル（正常）

交感神経の
鏡映基準線

副交感神経 虚

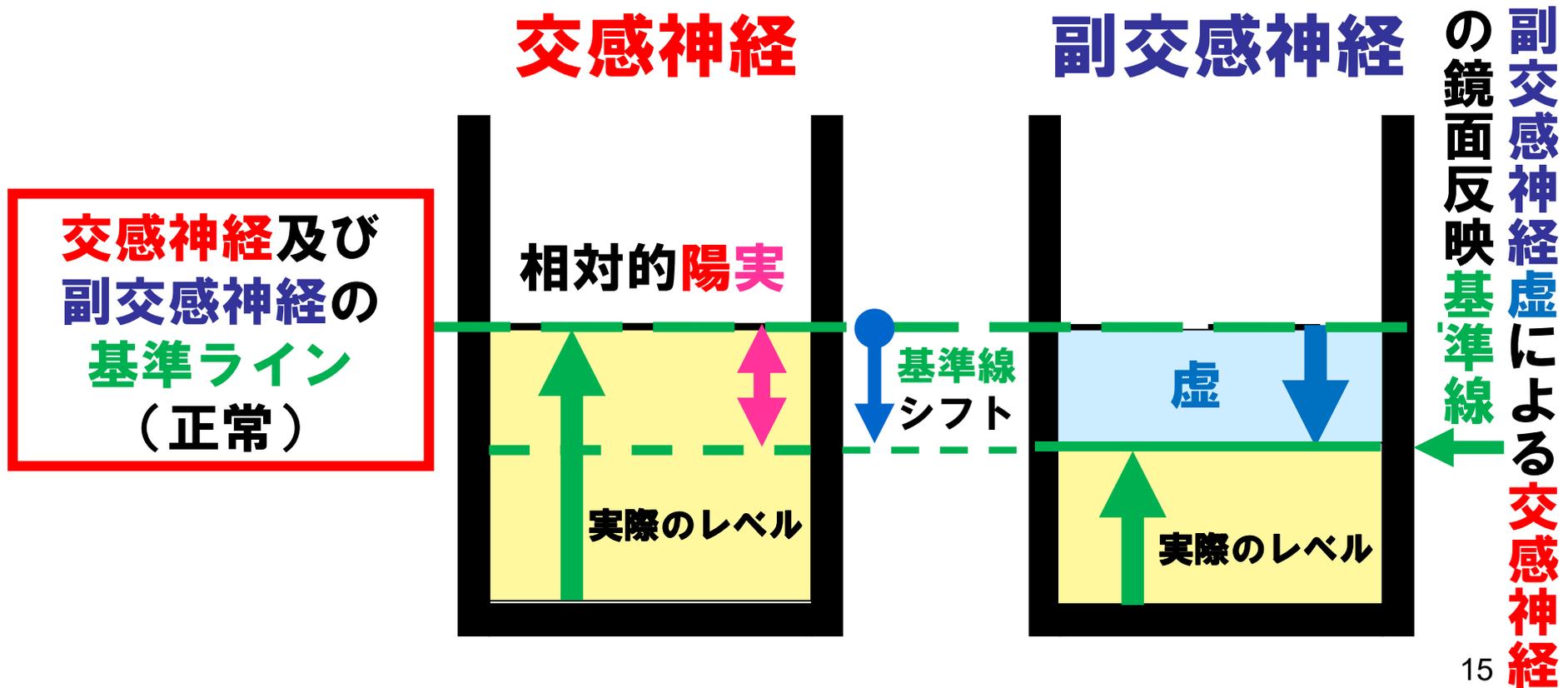
副交感神経の
実際のレベル（虚）

副交感神経の基準線

陰経側

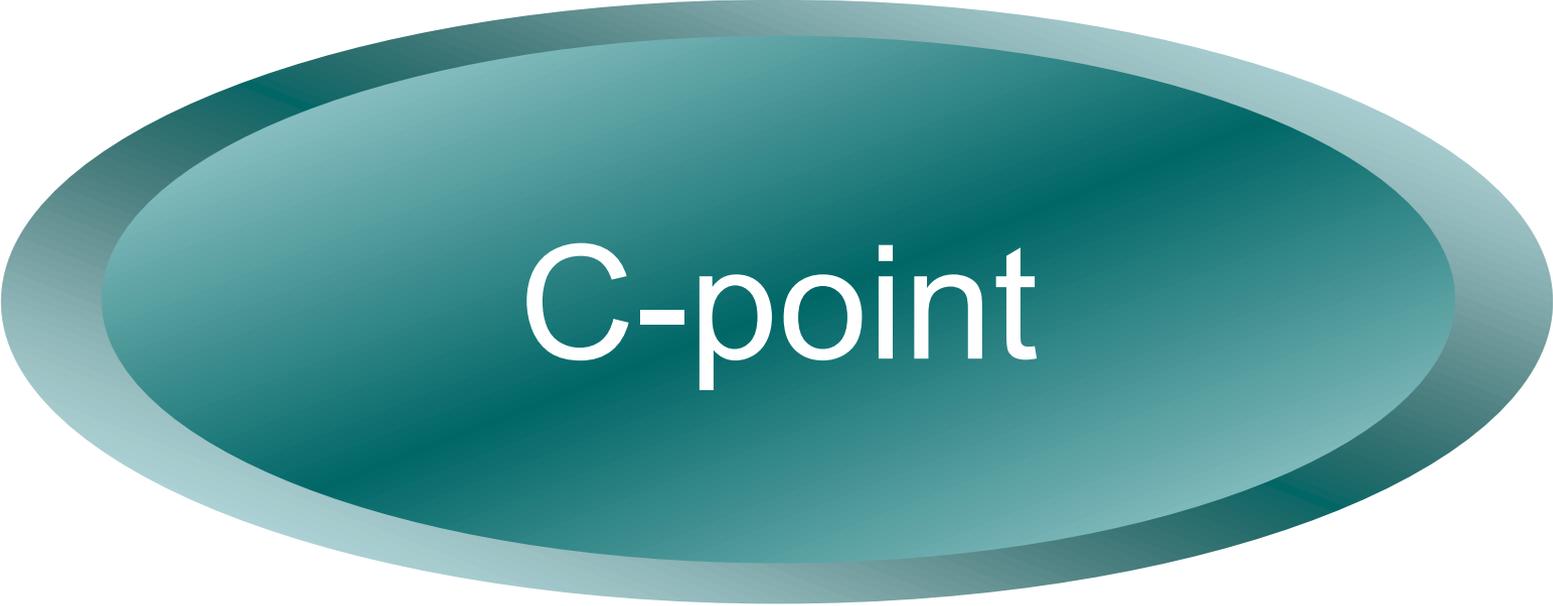
副交感神経機能低下に伴う

交感神経の相対的機能亢進





**十二経脈変化論
実・虚に対する瀉・補の影響**



C-point

経脈変化論

(C-point を使わない場合)

I .C-point (絡穴) を使わない場合:

- ① 「**正常**」のラインは直接「**瀉**」しても「**補**」しても変化しない。
- ② 「**実**」のラインは直接「**補**」しても変化しない。但し、「**瀉**」すると僅かに「**実**」が減少する。
- ③ 「**虚**」のラインは直接「**瀉**」しても変化しない。但し、「**補**」すると僅かに「**虚**」が改善する。

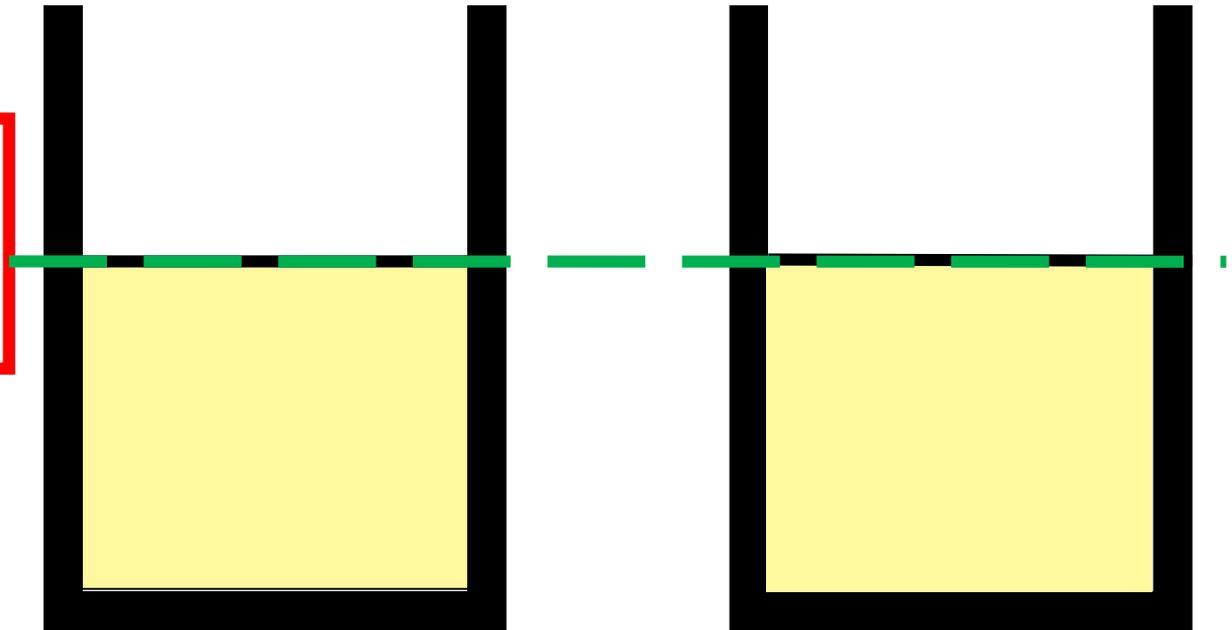
正 常

陽 経
(陰経)

陰 経
(陽経)

直接瀉又は補しても、何れも変化なし

陽経及び陰経の
基準ライン
(正常)

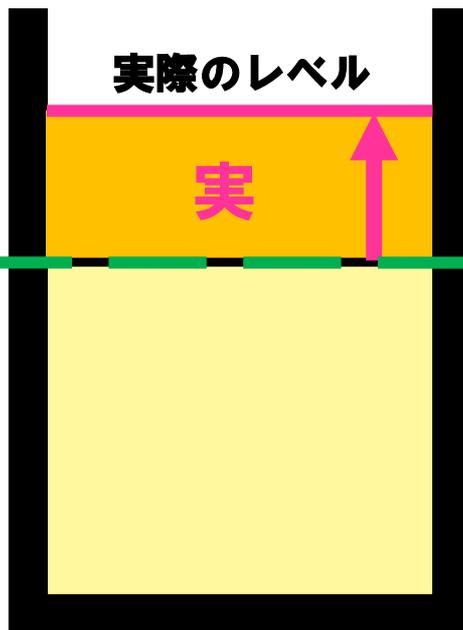


実と虚

陽 經

(陰經)

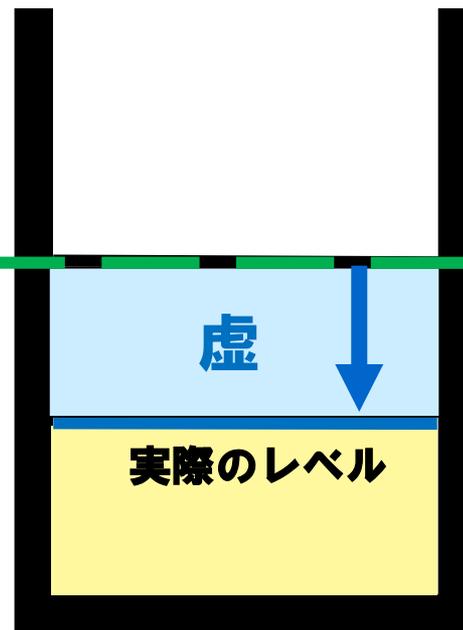
直接補しても
変化なし



陰 經

(陽經)

直接瀉しても
変化なし



陽經及び陰經の
基準ライン
(正常)

実と虚

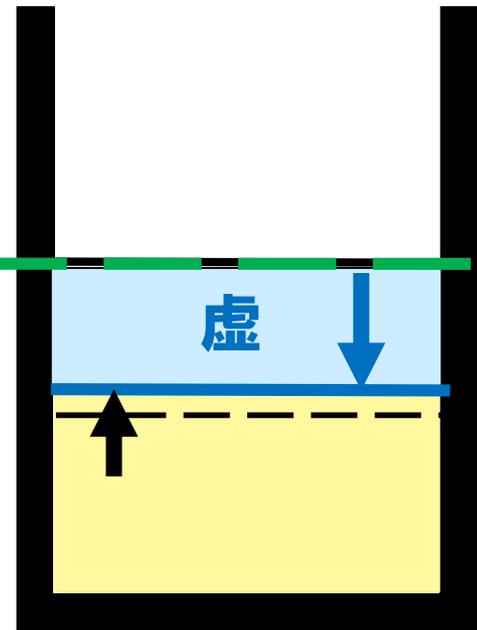
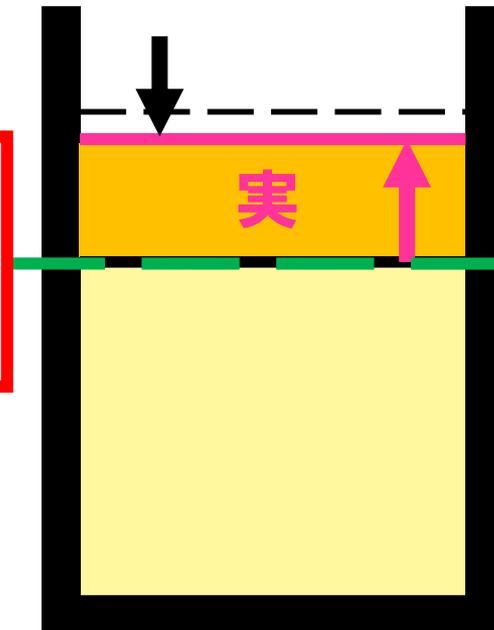
陽 經
(陰 經)

陰 經
(陽 經)

瀉したら僅かに改善
(実・減少)

補したら僅かに改善
(虚・減少)

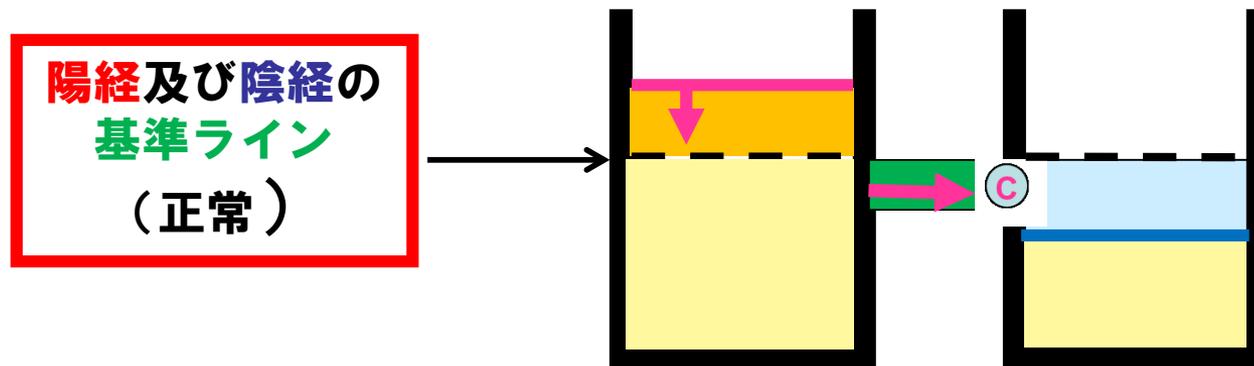
陽經及び陰經の
基準ライン
(正常)



経脈変化論 (C-point を使った場合)

Ⅱ.C-point (絡穴) を使った場合 :

- ① C-point を押して手技をすると、C-point を押した反対側が変化する。
- ② C-point を押すと、押していない側から押した側に流れる。



経脈変化論

Ⅱ. C-point (絡穴) を使って補・瀉する場合：

1. 陽経・陰経共に「正常」の場合：

どちらか一方のラインの絡穴を押しながら、そのラインを「補」すと、何れのラインも実方向へ変化し、「瀉」すと虚方向へ変化する。

陽経・陰経共に正常の場合

陽・陰どちらかを絡穴を
押しながら補した場合

陽・陰どちらかを絡穴を
押しながら瀉した場合

陽経側

陽経（正常）



C



どちらか一方の C-point（絡穴）を使う

陰経（正常）



C



陰経側

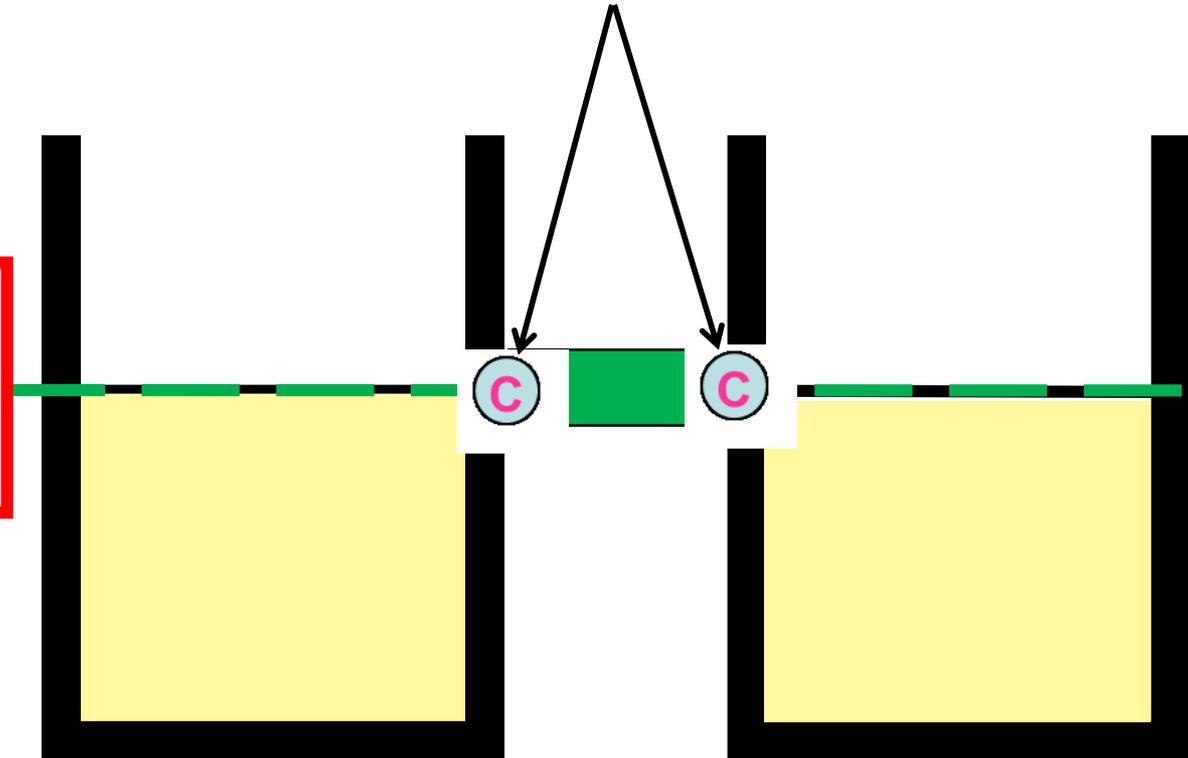
正常同士を絡穴を使って補

陽 経
(陰経)

陰 経
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら補すと

陽経及び陰経の
基準ライン
(正常)



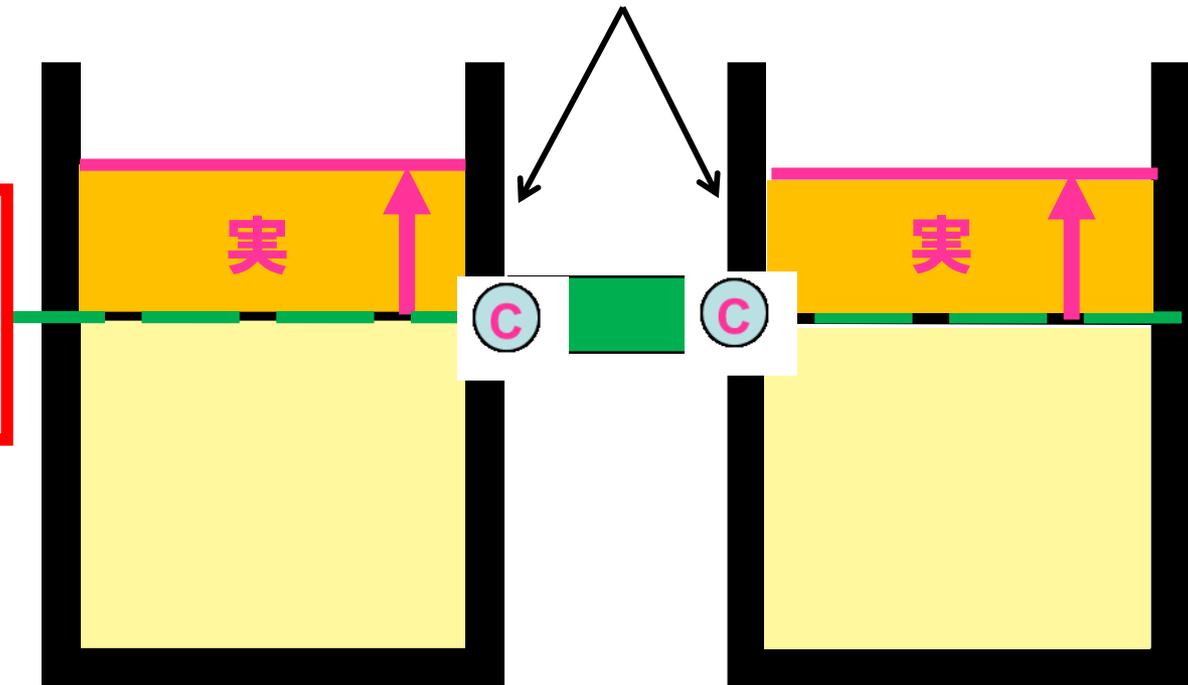
正常同士を絡穴を使って補

陽 経
(陰経)

陰 経
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら補すと、
何れのラインも実方向へ変化する

陽経及び陰経の
基準ライン
(正常)



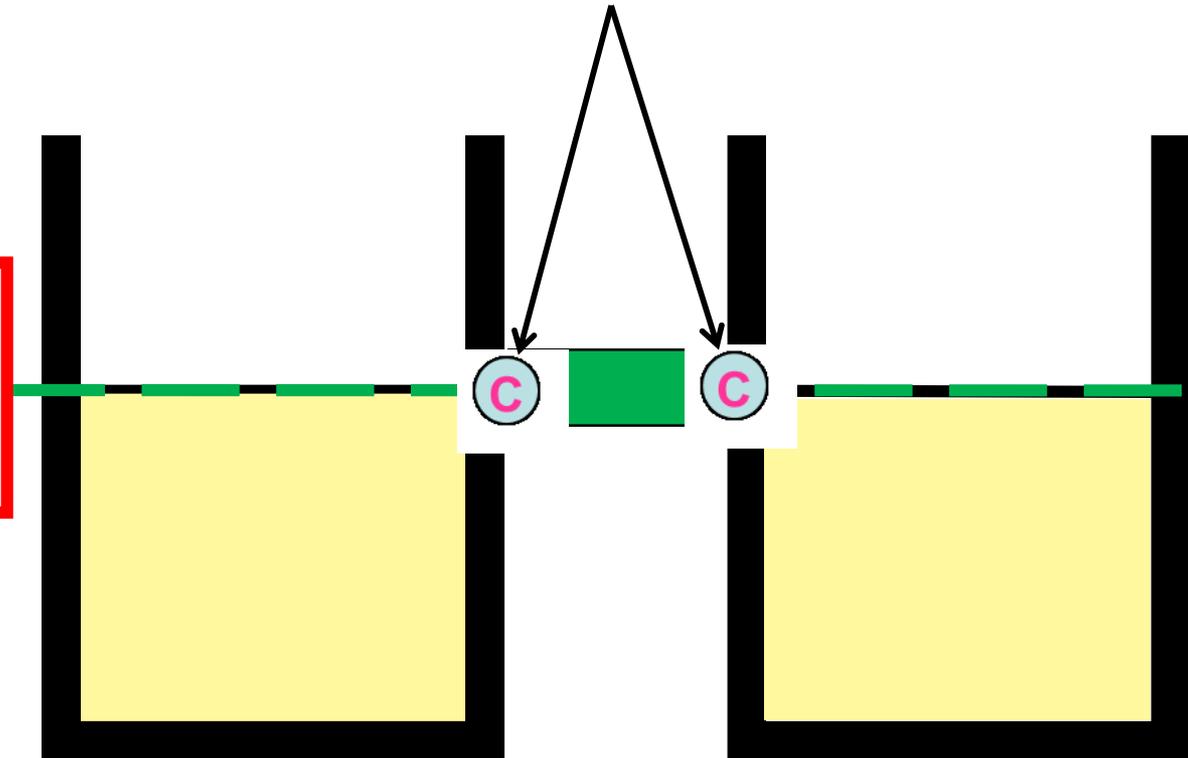
正常同士を絡穴を使って瀉

陽 経
(陰経)

陰 経
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら瀉すと

陽経及び陰経の
基準ライン
(正常)



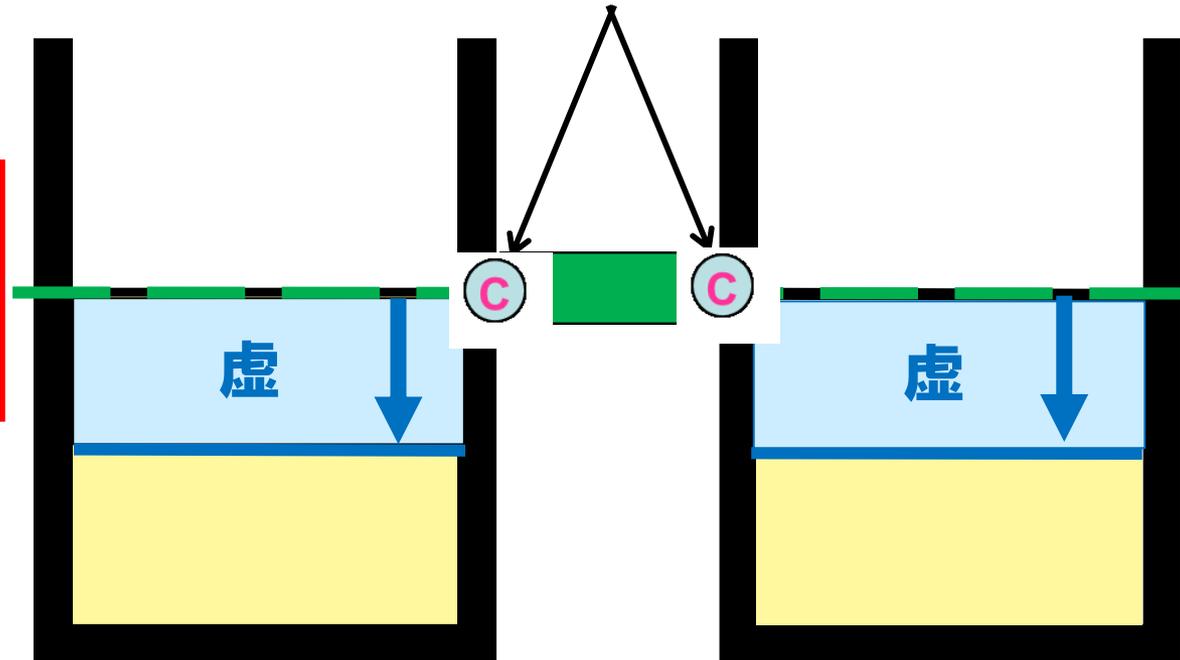
正常同士を絡穴を使って瀉

陽 経
(陰経)

陰 経
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら瀉すと、
何れのラインも虚方向へ変化する

陽経及び陰経の
基準ライン
(正常)



注意：一方が正常で、他方が正常でない場合

正常のラインに対して、他方のラインを C-point を押しながら「瀉」又は「補」と

①「瀉」した場合

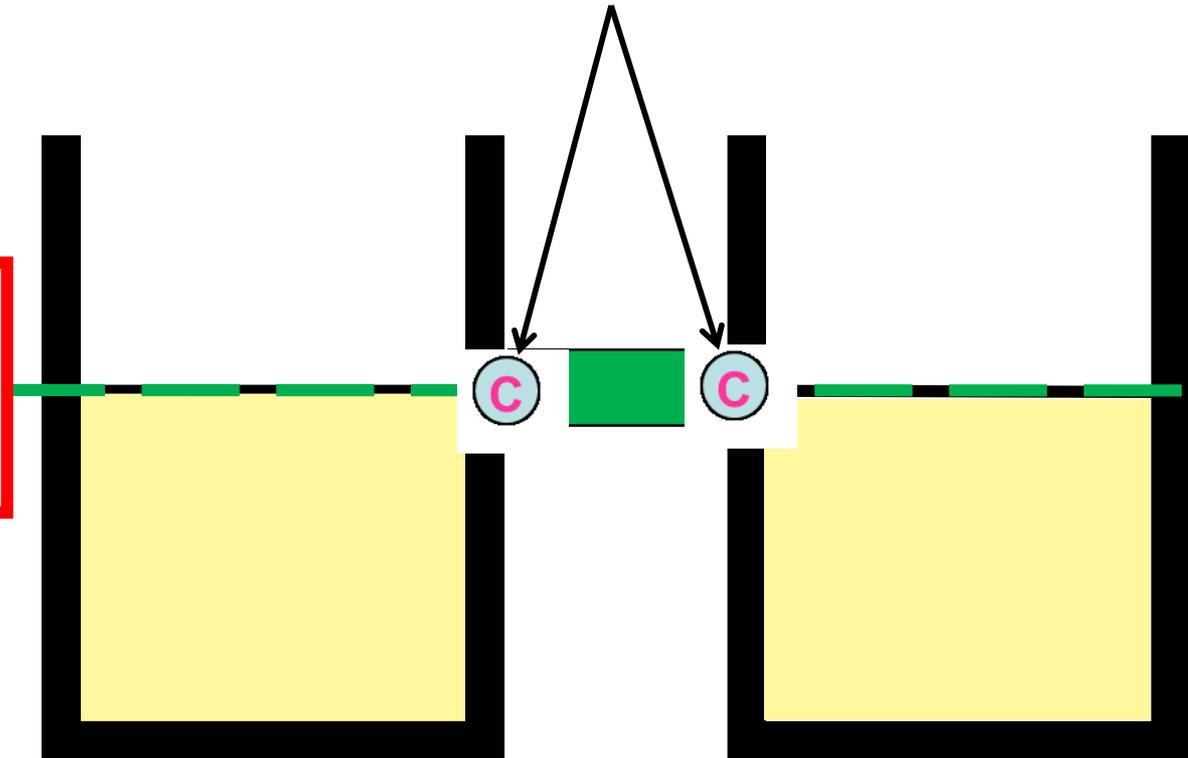
正常同士を絡穴を使って瀉

陽 経
(陰経)

陰 経
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら瀉すと

陽経及び陰経の
基準ライン
(正常)



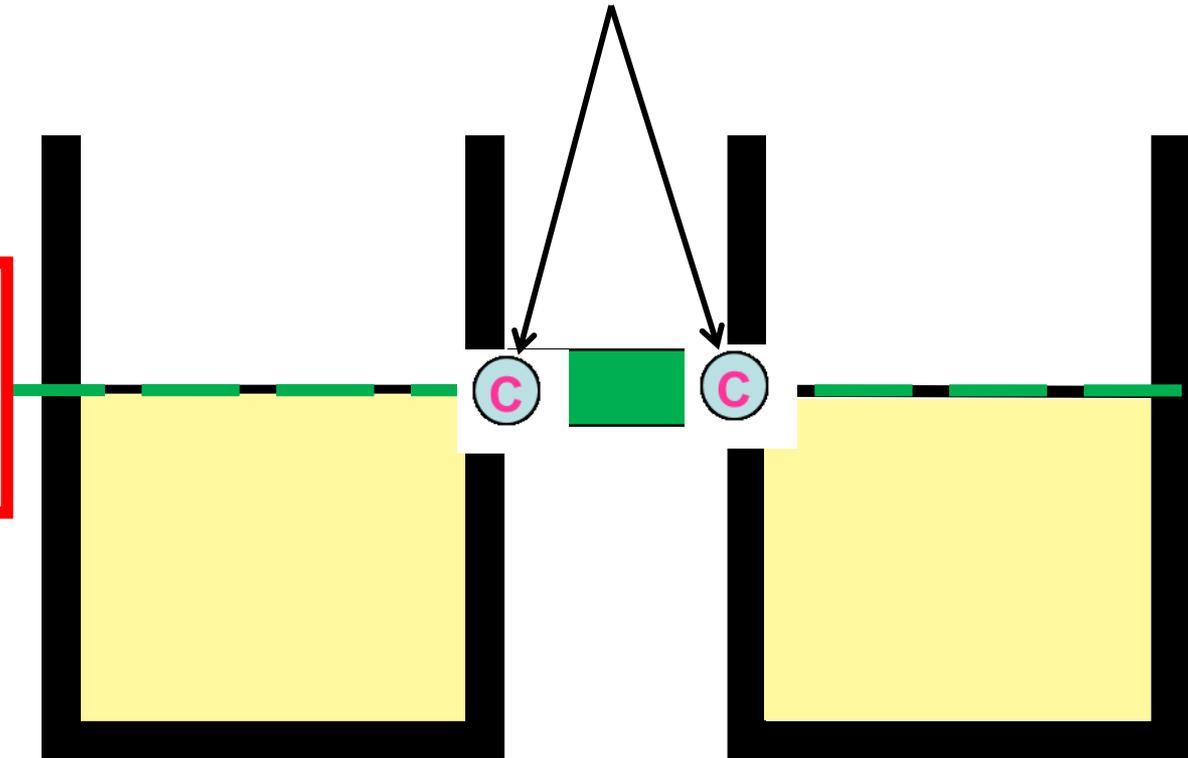
正常同士を絡穴を使って瀉

陽 経
(陰経)

陰 経
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら瀉すと

陽経及び陰経の
基準ライン
(正常)



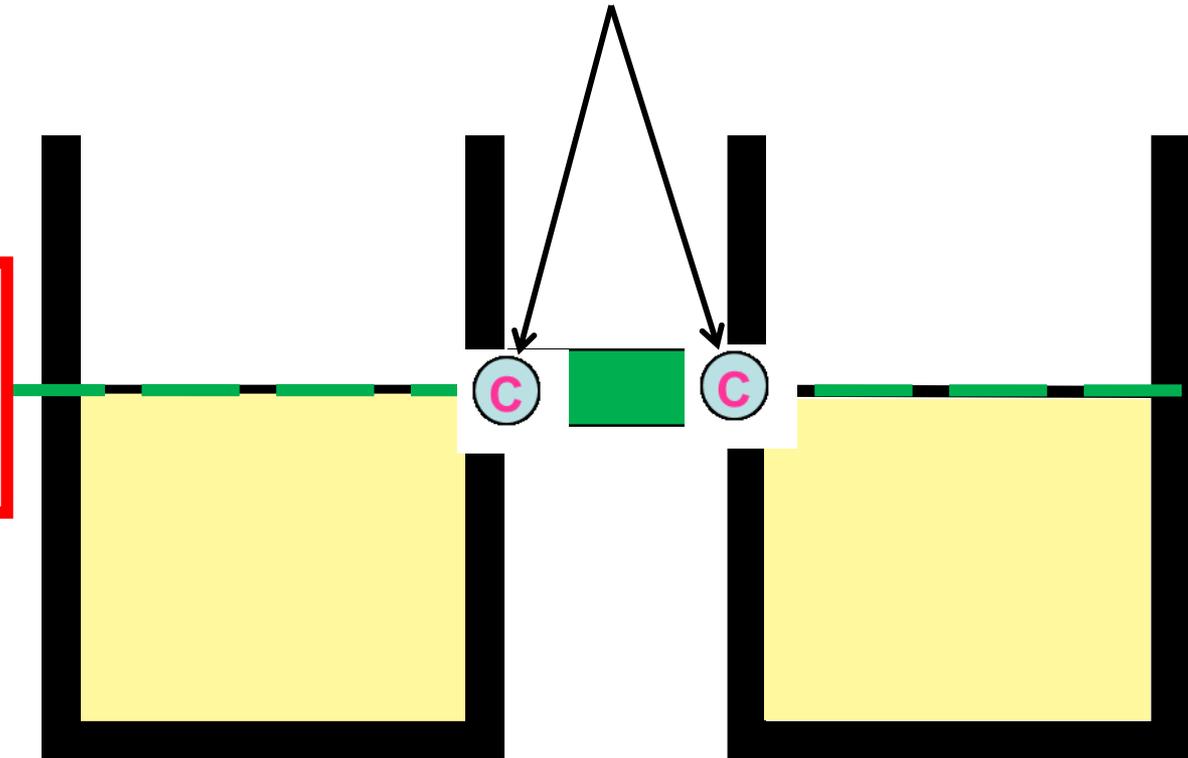
正常同士を絡穴を使って瀉

陽 経
(陰経)

陰 経
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら瀉すと

陽経及び陰経の
基準ライン
(正常)



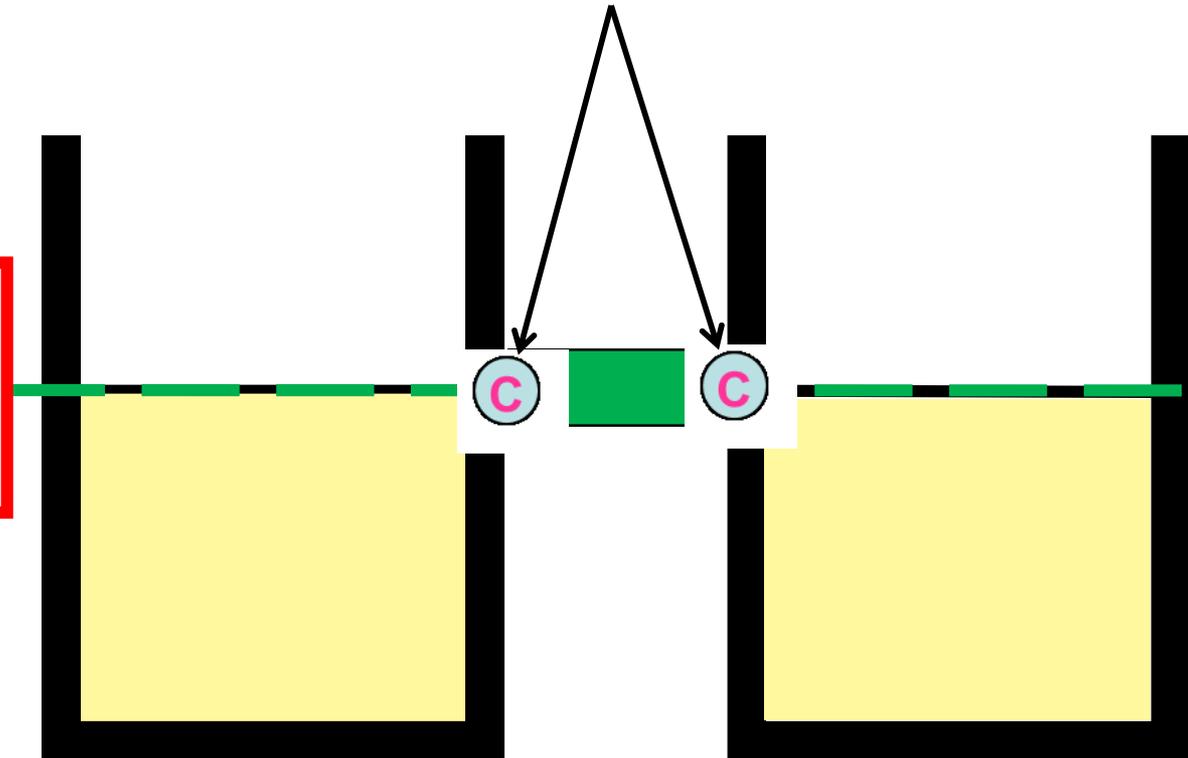
正常同士を絡穴を使って瀉

陽 経
(陰経)

陰 経
(陽経)

どちらかの C-point (絡穴) を押しながら瀉すと

陽経及び陰経の
基準ライン
(正常)



実・虚に対する瀉・補の影響

3つのパターンを考える

①一方が**実**・他方が**正常**

②一方が**正常**・他方が**虚**

③一方が**実**・他方が**虚**

①～③に対して次の **1** ～ **8** のパターンでの変化を考える。

1～8のパターンの解析

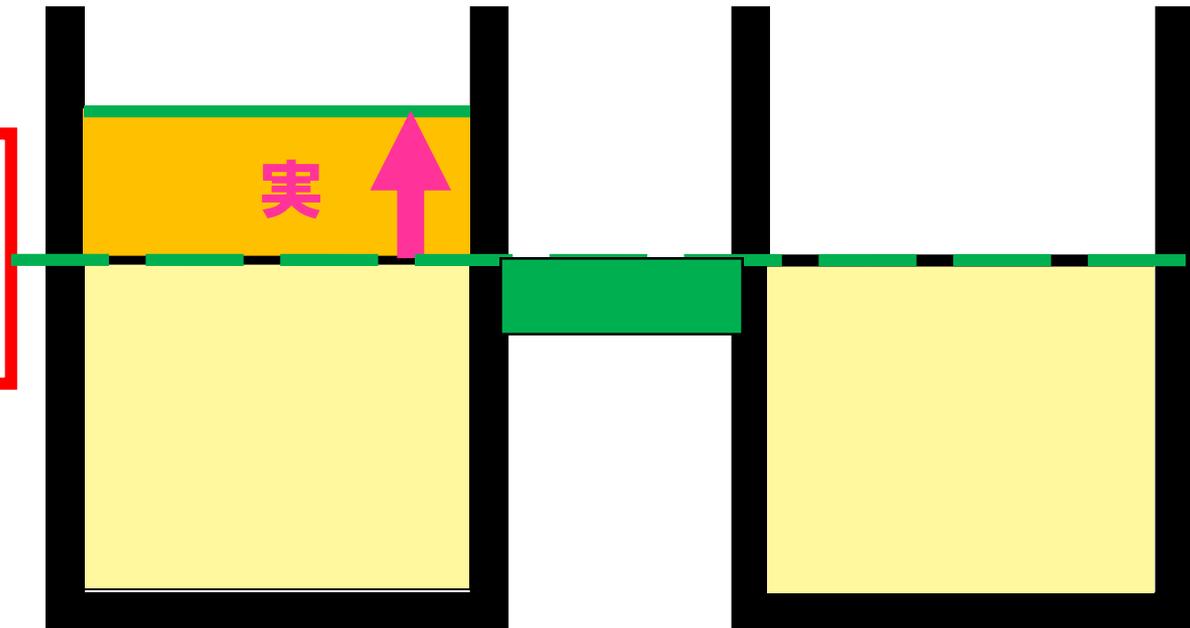
- 1 陽経のみを瀉す
- 2 陰経のみを瀉す
- 3 陽経のみを補す
- 4 陰経のみを補す
- 5 陽経の絡穴を押し陽経を瀉す
- 6 陰経の絡穴を押し陰経を瀉す
- 7 陽経の絡穴を押し陽経を補す
- 8 陰経の絡穴を押し陰経を補す

①一方が**実**・他方が**正常**

陽 経
実

陰 経
正常

陽経及び陰経の
基準ライン
(正常)

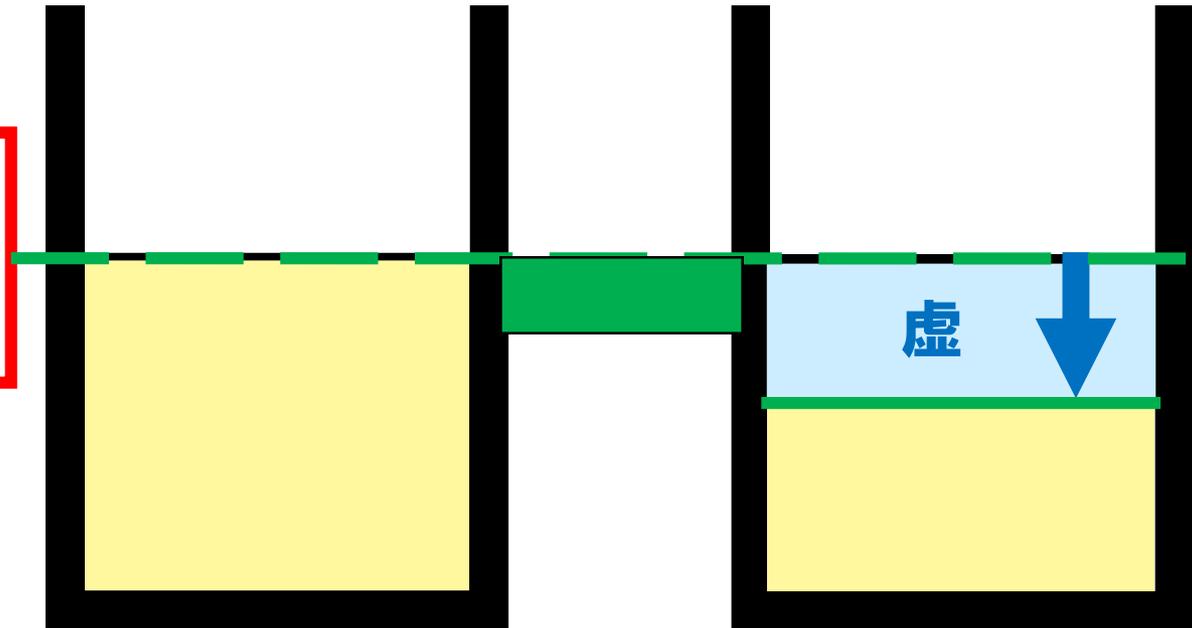


②一方が正常・他方が虚

陽 經
正常

陰 經
虚

陽經及び陰經の
基準ライン
(正常)

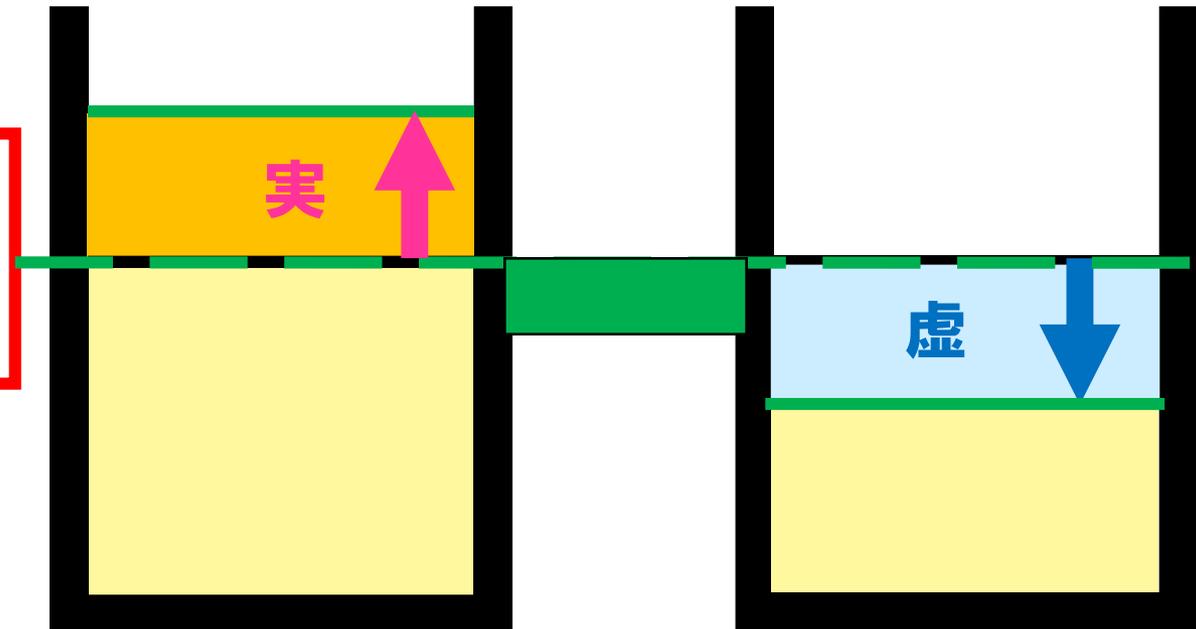


③一方が**実**・他方が**虚**

陽 經
実

陰 經
虚

陽經及び陰經の
基準ライン
(正常)

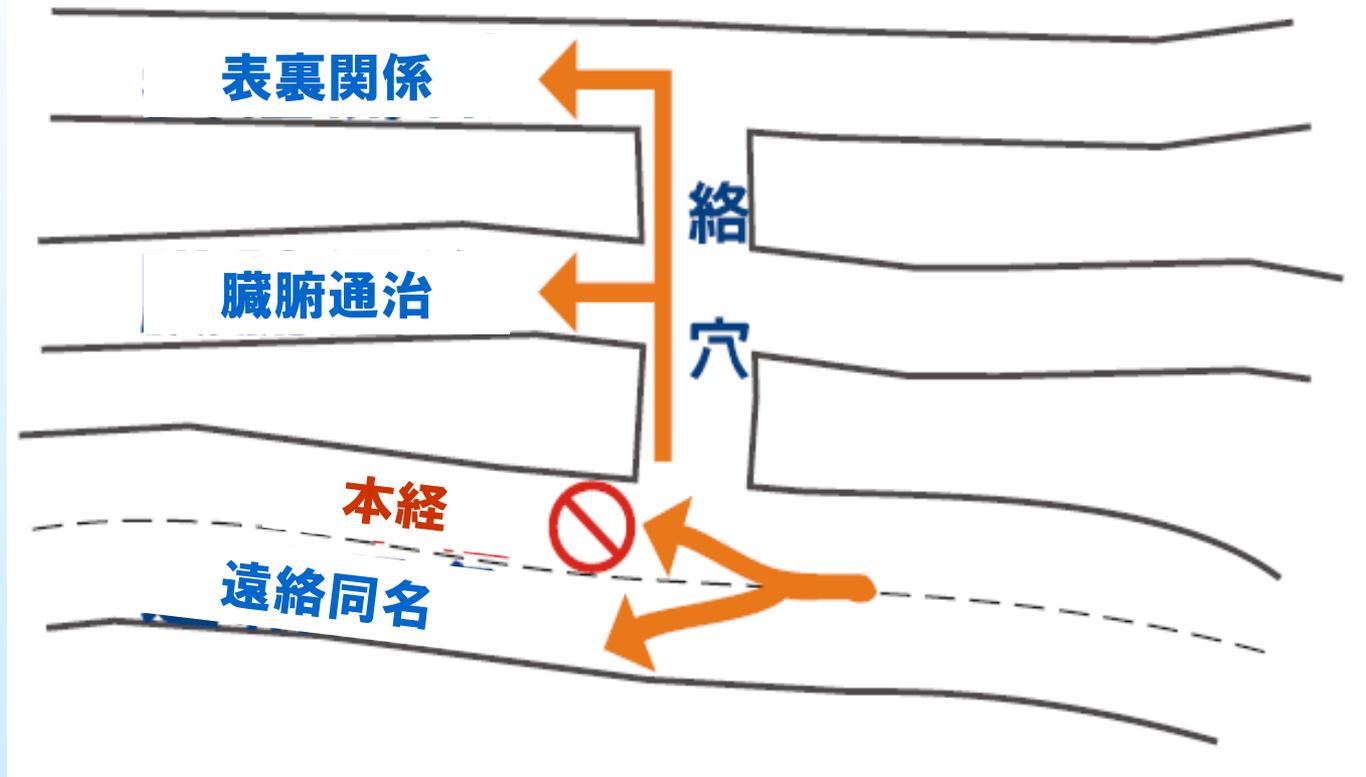




連接

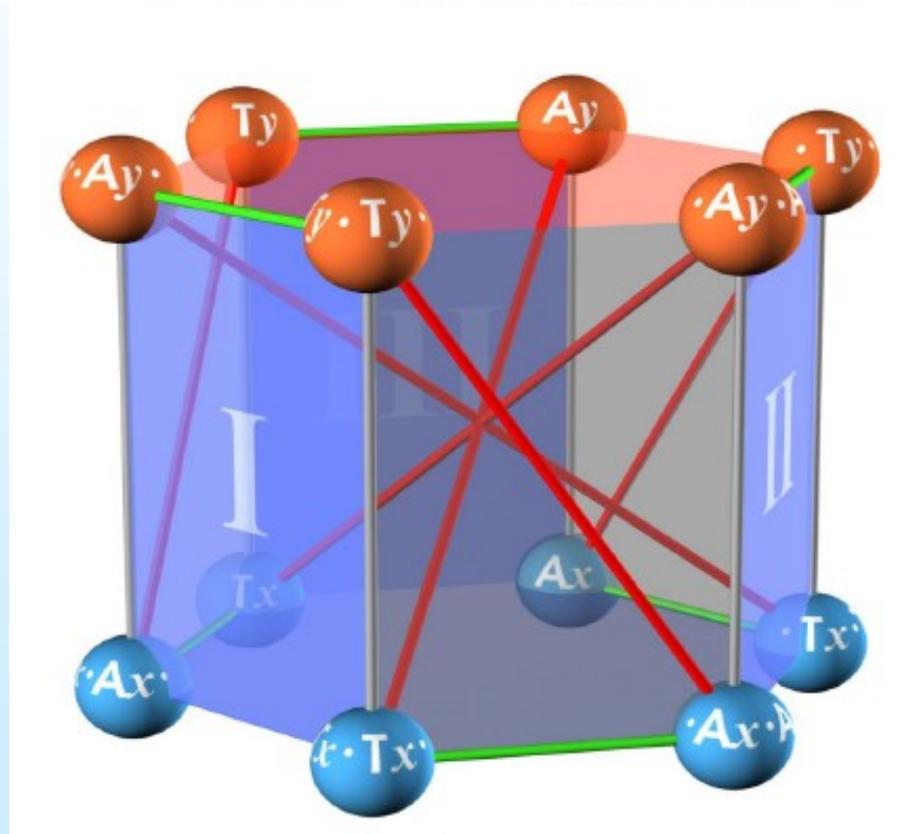
遠絡医学における接続の考え方

3つの接続方法

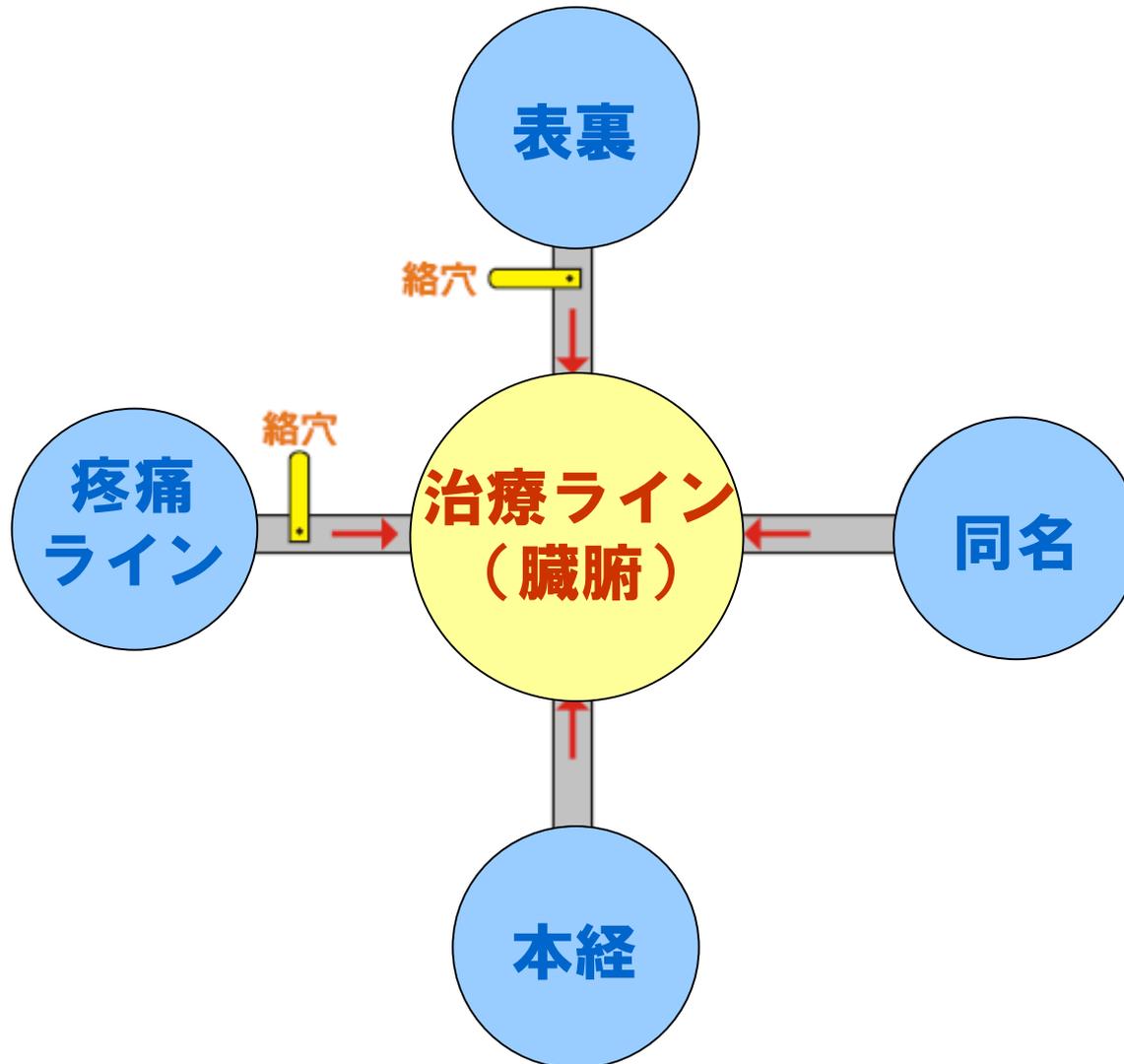


遠絡医学における接続の考え方

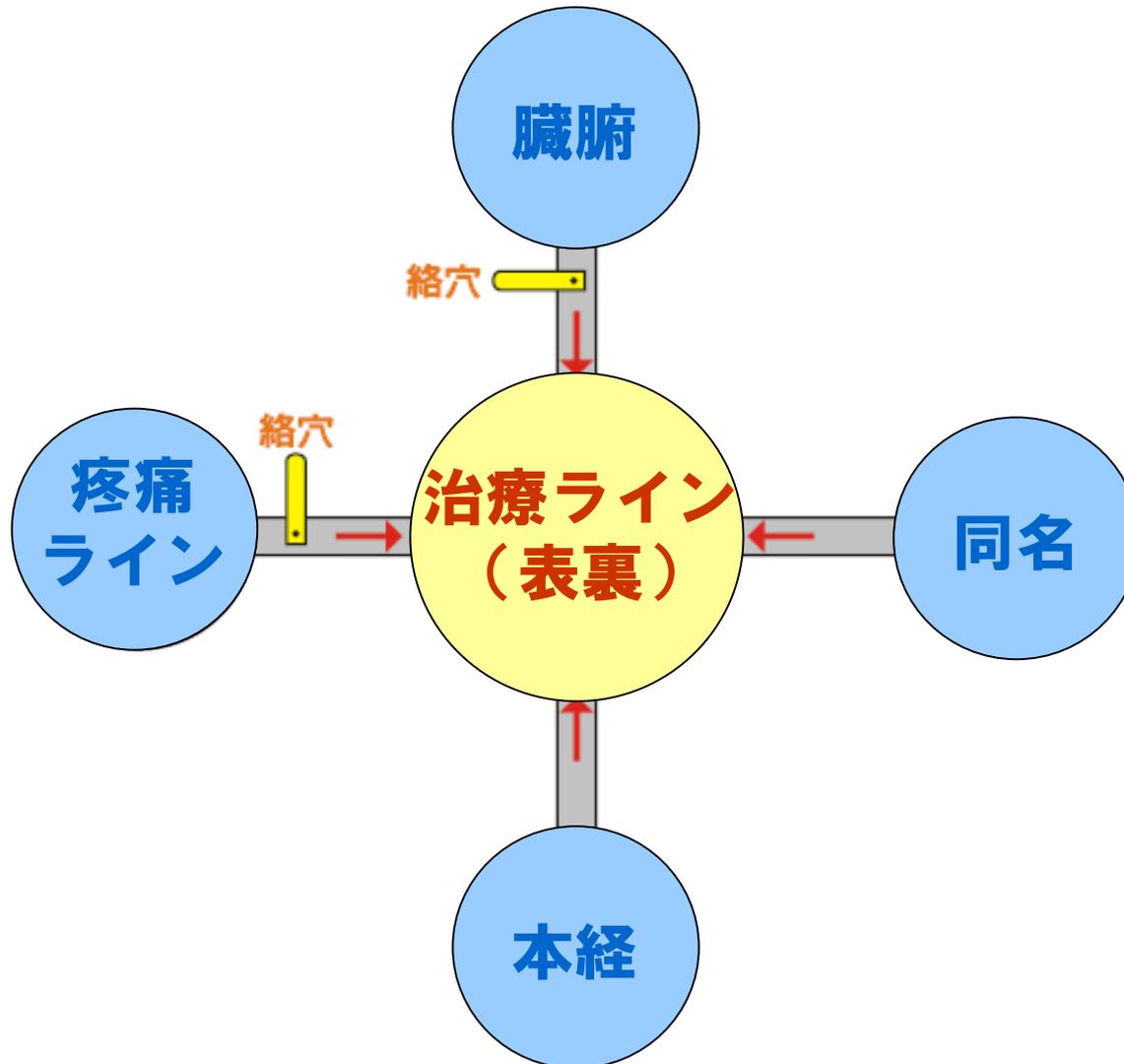
六角形接続関係模型図



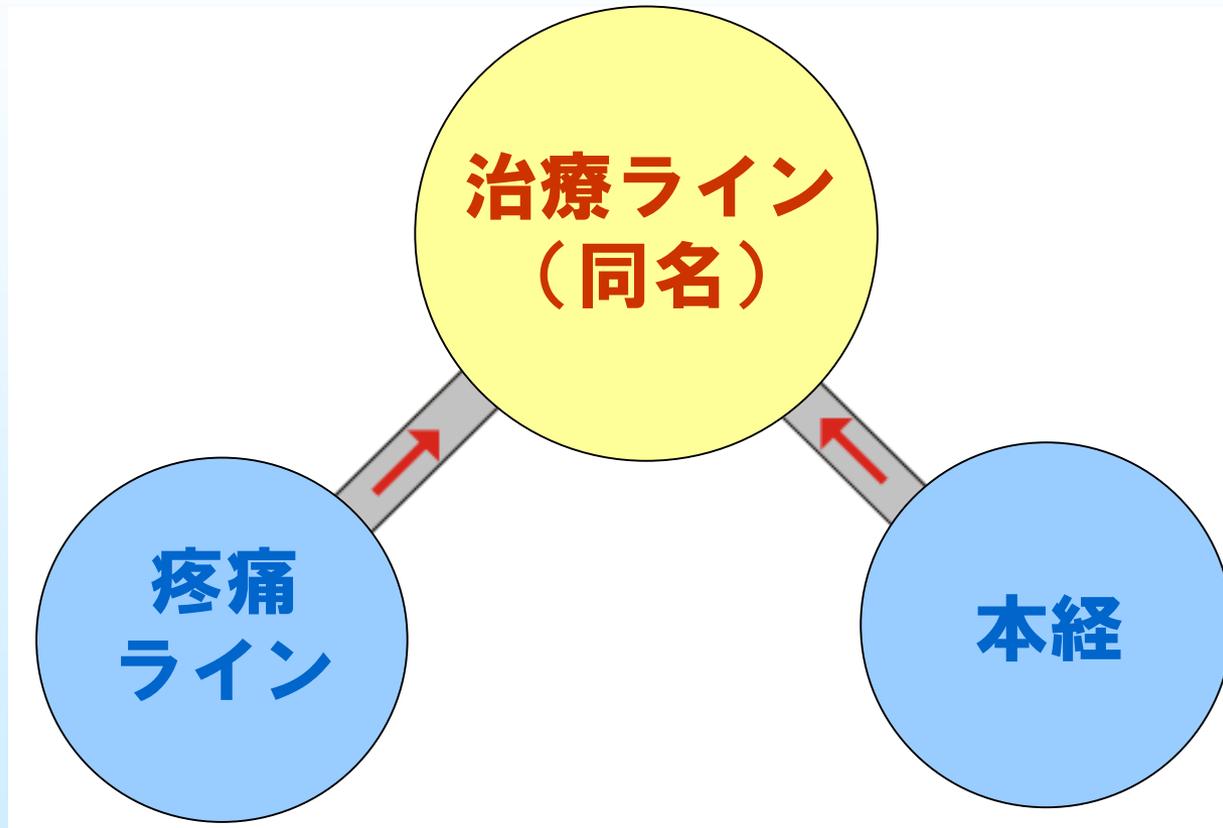
遠絡医学における接続の考え方



遠絡医学における接続の考え方



遠絡医学における接続の考え方



局所症状の治療ラインを決めるには

治療ライン

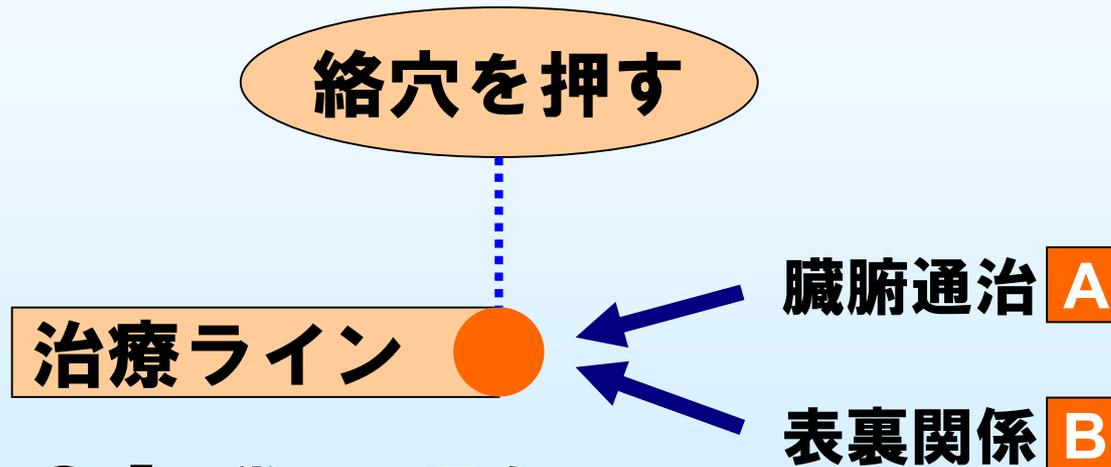
→ **正常** or **虚** が必要条件

→ **実** は治療効果が出ない

※治療ラインが実ではないことが接続するための必要条件

絡穴の応用

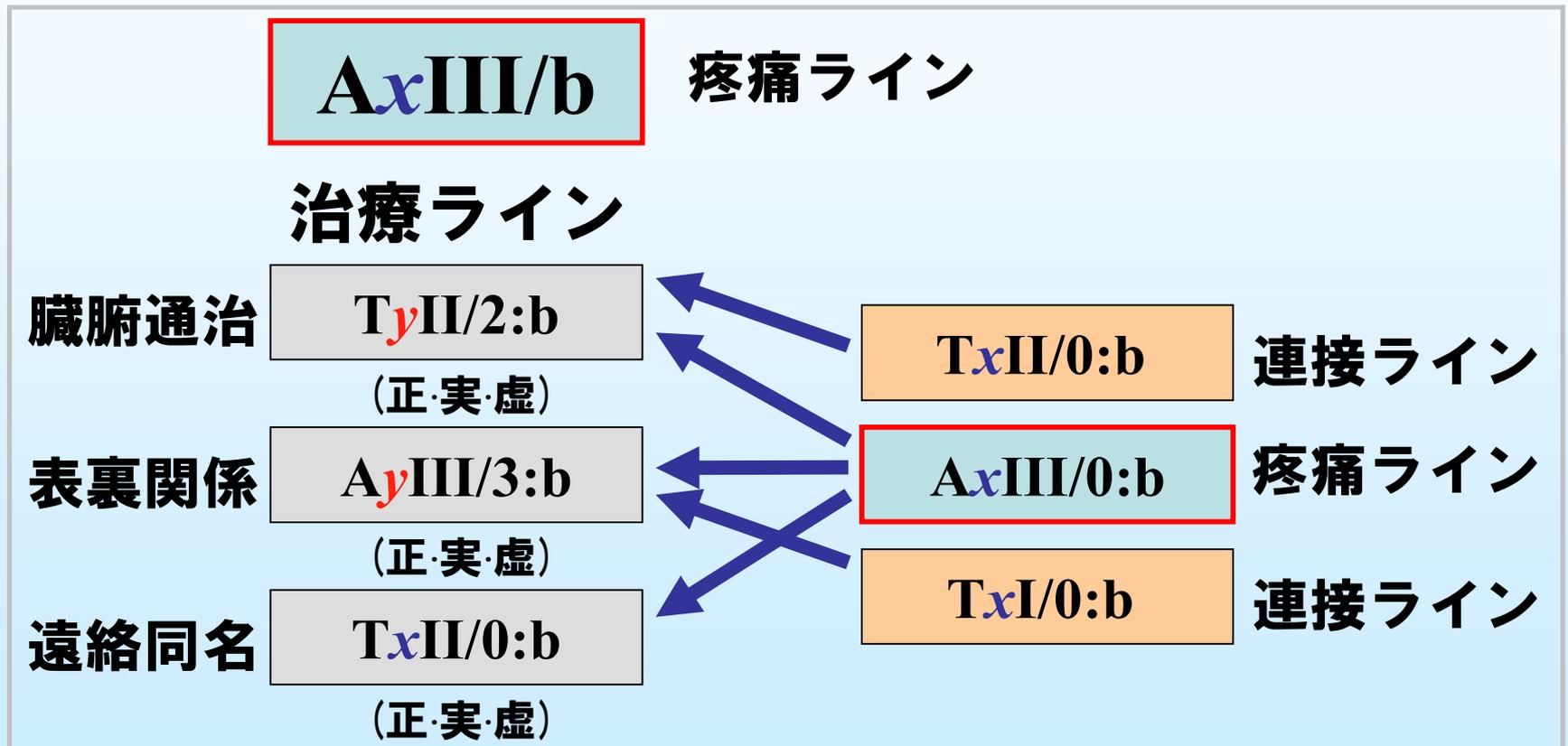
絡穴を押して、接続をする



- ① 「正常」の場合
- ② 「実」の場合
- ③ 「虚」の場合

絡穴の応用

絡穴を押して、接続をする



rAyIII 坐骨部痛 (b)

(1)

IT_xI/1:b ← rAyIII/b 実
← rTyI/b ①正常 ②実 ③虚の場合

- ① 正常の場合
- ② 「実」の場合
- ③ 「虚」の場合

rAyIII 坐骨部痛 (b)

(2)

$lAxIII/a:b$ ← $rTxII/a+b$ ①正常 ②実 ③虚の場合
← $rAyIII/b$ 実

- ① 正常の場合
- ② 「実」の場合
- ③ 「虚」の場合

治療ライン選定 練習問題

問題 1.

右側のT_yIとT_xIの肩関節痛及び
右側A_xII股関節痛の治療方法

問題 1. 治療ライン選定ガイド

治療対象ライン	臓腑通治	表裏	同名	本経
例 rAyIII/a	rTy I /a (表裏) ↓ (同名) ITx I /1:a ← rAx II /a ↑ (本経) rTx I /a (本経)	rTy II /a (臓腑通治) ↓ (同名) IAx III /a:a ← rTx II /a ↑ (本経) rAx III /a (本経)	rTy III /a (本経) ↓ rTy III /0:a	rTy III /a (同名) ↓ rAy III /0:a
	(表裏) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(臓腑通治) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(本経) ↓	(同名) ↓
	(表裏) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(臓腑通治) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(本経) ↓	(同名) ↓
	(表裏) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(臓腑通治) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(本経) ↓	(同名) ↓
	(表裏) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(臓腑通治) ↓ (同名) ← ↑ (本経)	(本経) ↓	(同名) ↓
最終的な治療式				

一部拡大

治療対象ライン	臓腑通治	
例 rAyIII / a	rTy I / a ↓ ITx I / 1:a ↑ rTx I / a	(表裏) (同名) rAx II / a ←

完成した表は別途配布

一部拡大

治療対象ライン	表裏	
例	rTy II / a ↓ IAx III / a:a ↑ rAx III / a	(臓腑通治) (同名) rTx II / a ←
rAy III / a		
		(本経)

完成した表は別途配布

一部拡大

治療対象ライン	同名	本経
例	rTyIII/a (本経)	rTyIII/a (同名)
rAyIII/a	↓ rTyIII/0:a	↓ rAyIII/0:a

完成した表は別途配布

問題 2.

左側のTxIII肘関節と右側AxI、
AyI膝関節痛の治療方法

十天干から十二天干へ

十天干の生数と成数

生数

1 木陽

2 木陰

3 火陽

4 火陰

5 土陽

成数

6 土陰

7 金陽

8 金陰

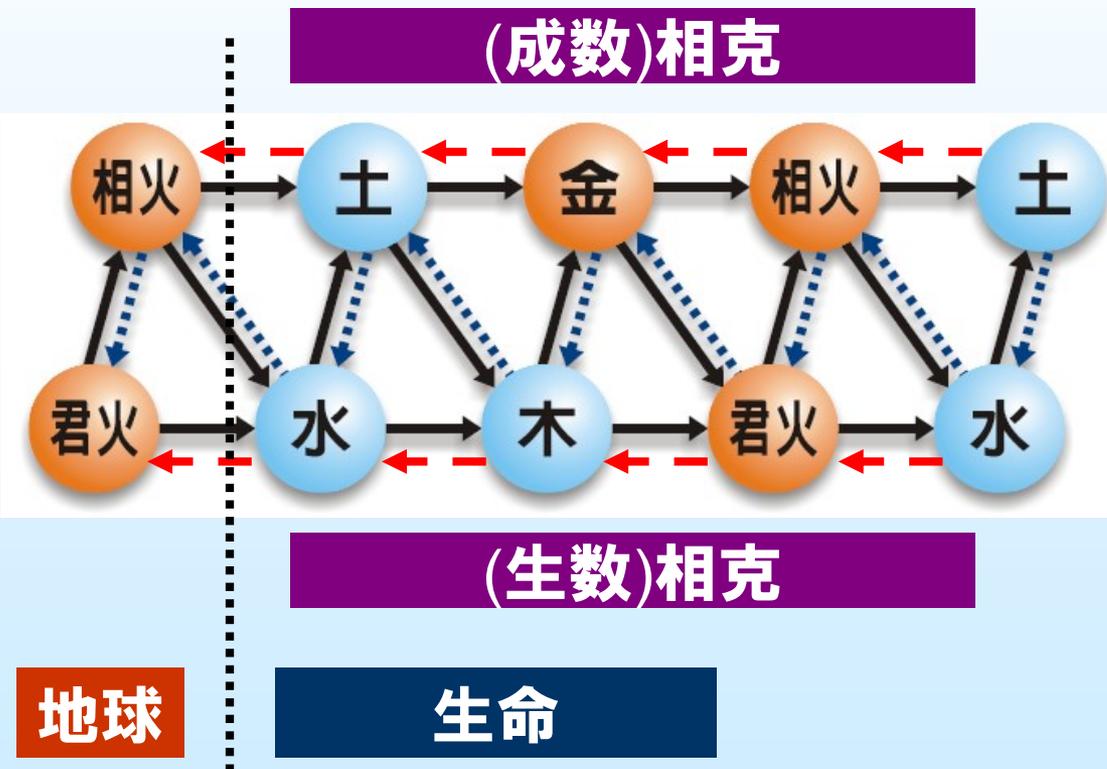
9 水陽

10 水陰

※成数=生数+5

生命誕生の生数と成数

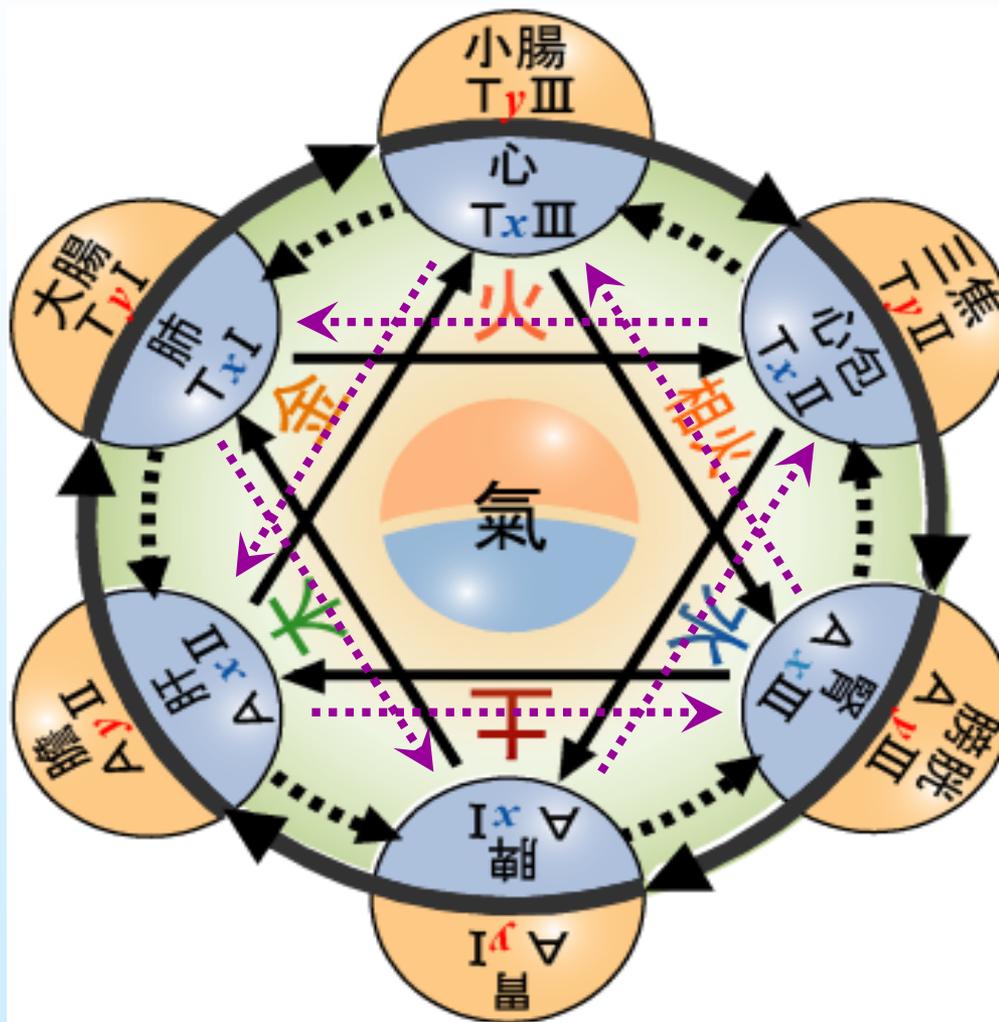
十二天干



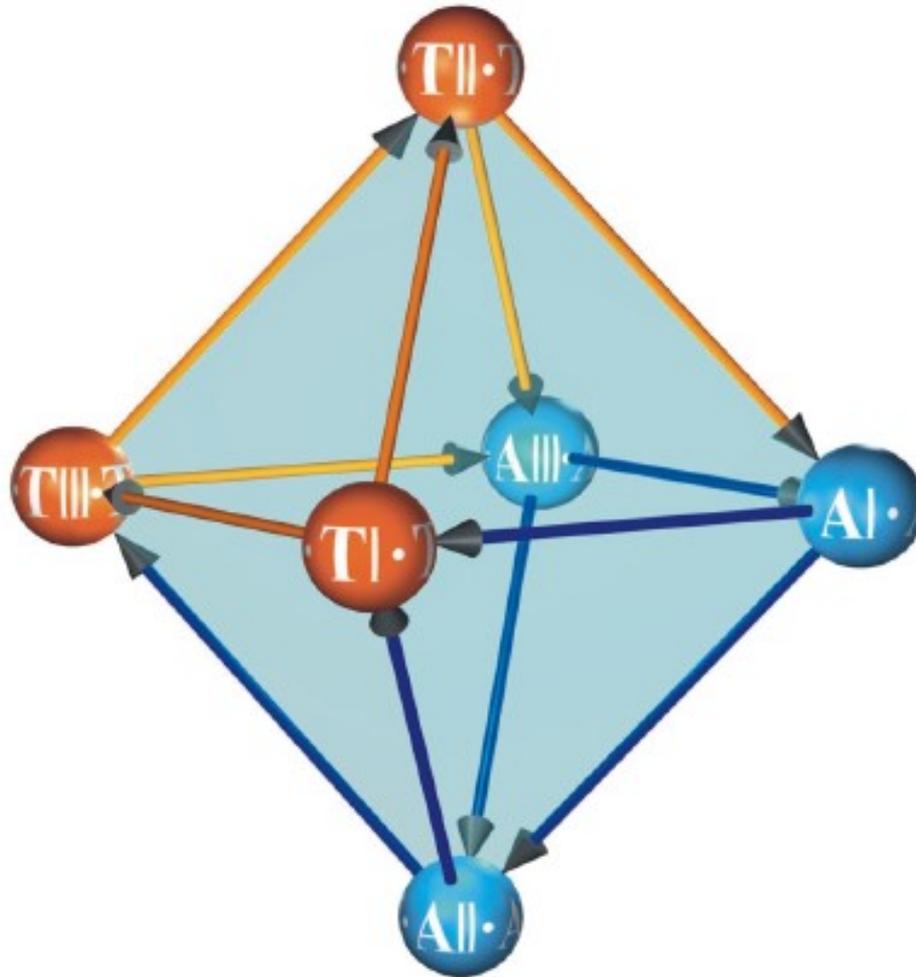
生数	成数
1 水陽	7 相火陽
2 水陰	8 相火陰
3 木陽	9 土陽
4 木陰	10 土陰
5 君火陽	11 金陽
6 君火陰	12 金陰

※成数=生数+6

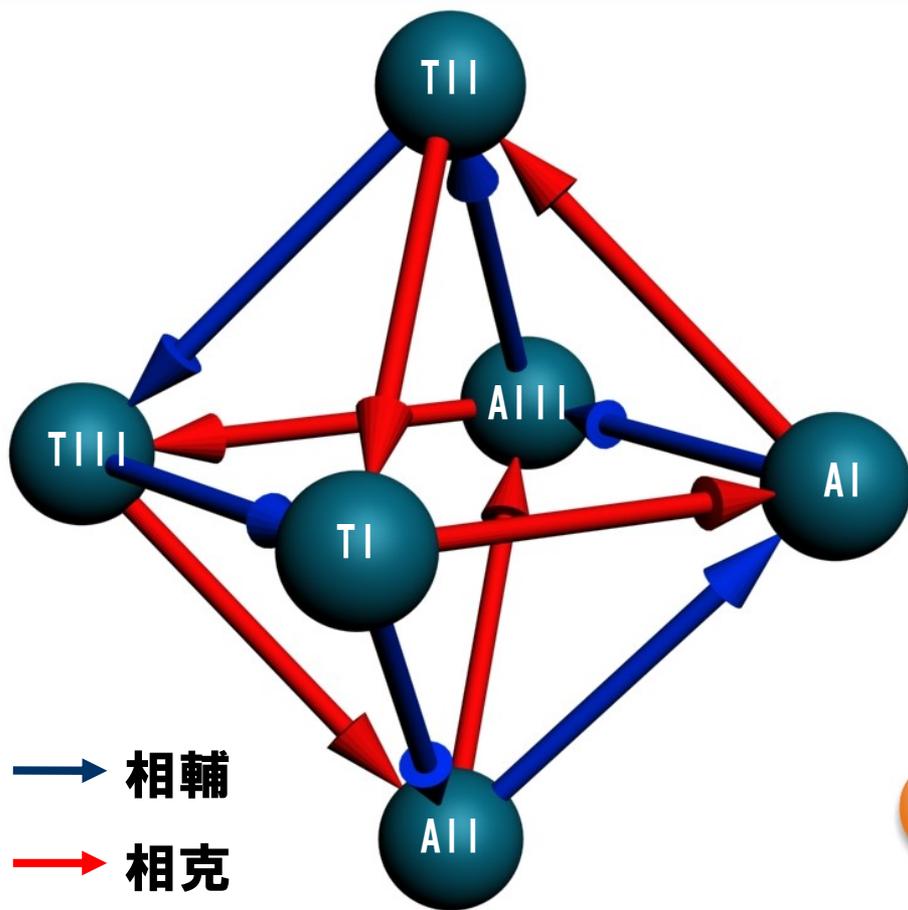
遠絡相生・相輔・相克關係圖



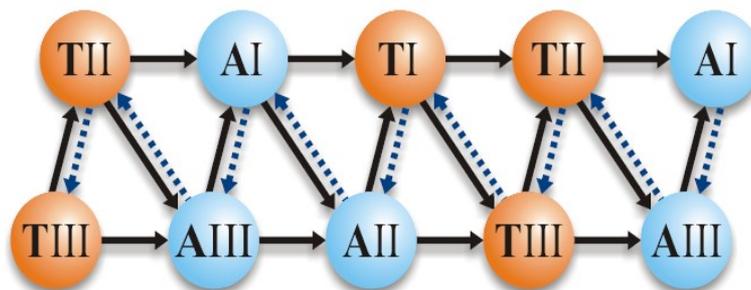
相生關係



相輔・相克關係



相輔・相克關係



記号表記

相 輔

相輔

A 輔する側

B 輔される側

相輔

A 輔する側

B 輔される側

A と **B** がそれぞれ、

1 正常の場合

2 「実」の場合

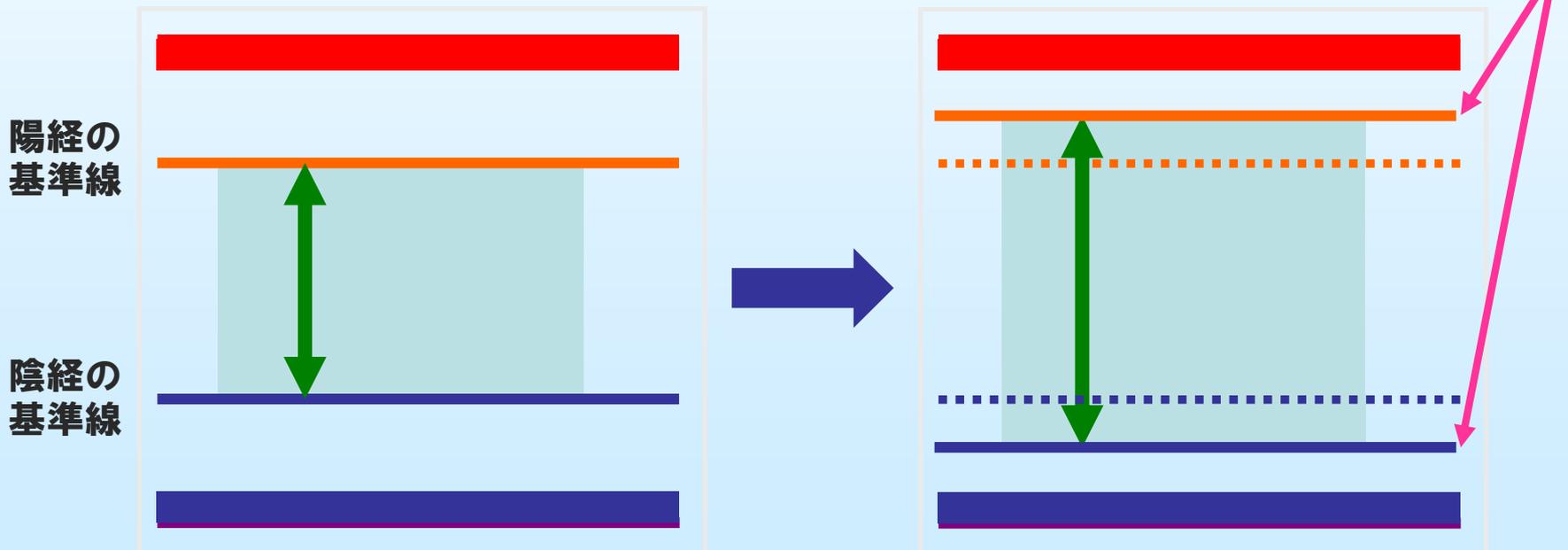
3 「虚」の場合

4 一方は「実」、一方は「虚」の場合

A 輔する側の場合

1 正常の場合

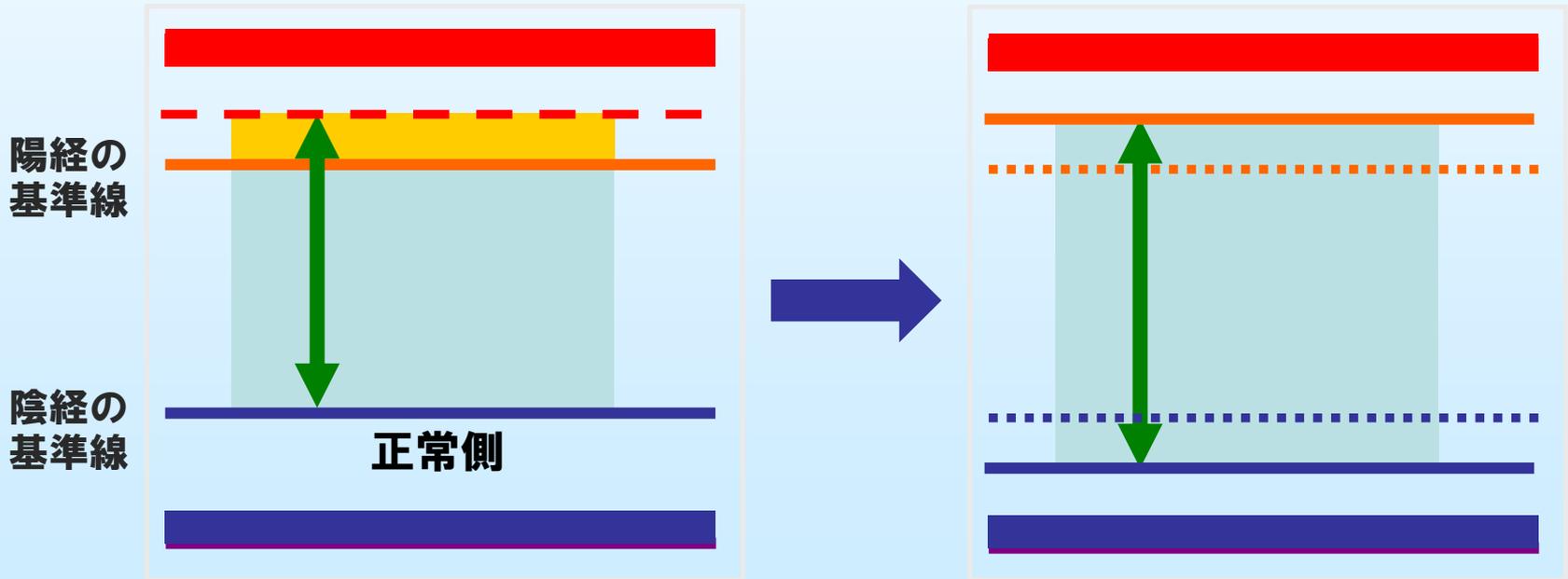
「陰」又は「陽」の絡穴を押しながら、
その「陰」又は「陽」のF-pointを補す。
→陰陽のラインが実側にシフトする。



A 輔する側の場合

2 「実」の場合

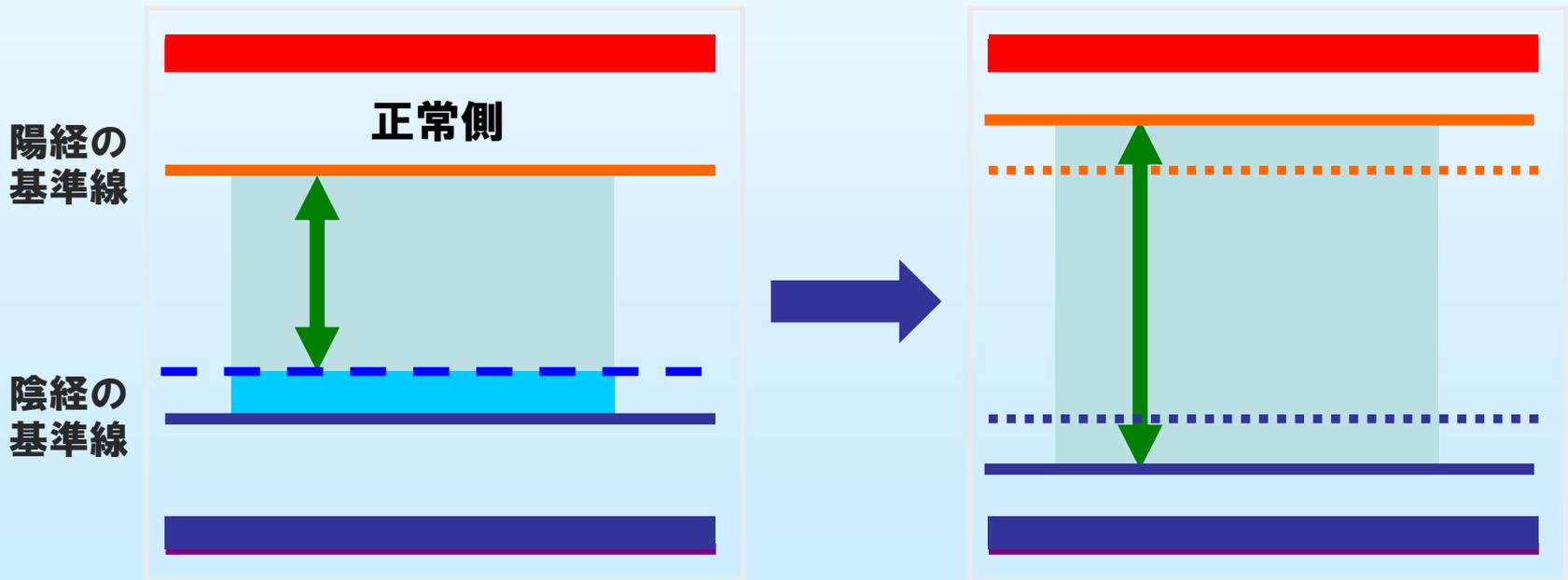
- ① 正常側の絡穴を押し、F-pointを瀉す。 → 実が無くなる。
- ② 正常側の絡穴を押し、F-pointを補す。 → ①と同じになる。



A 輔する側の場合

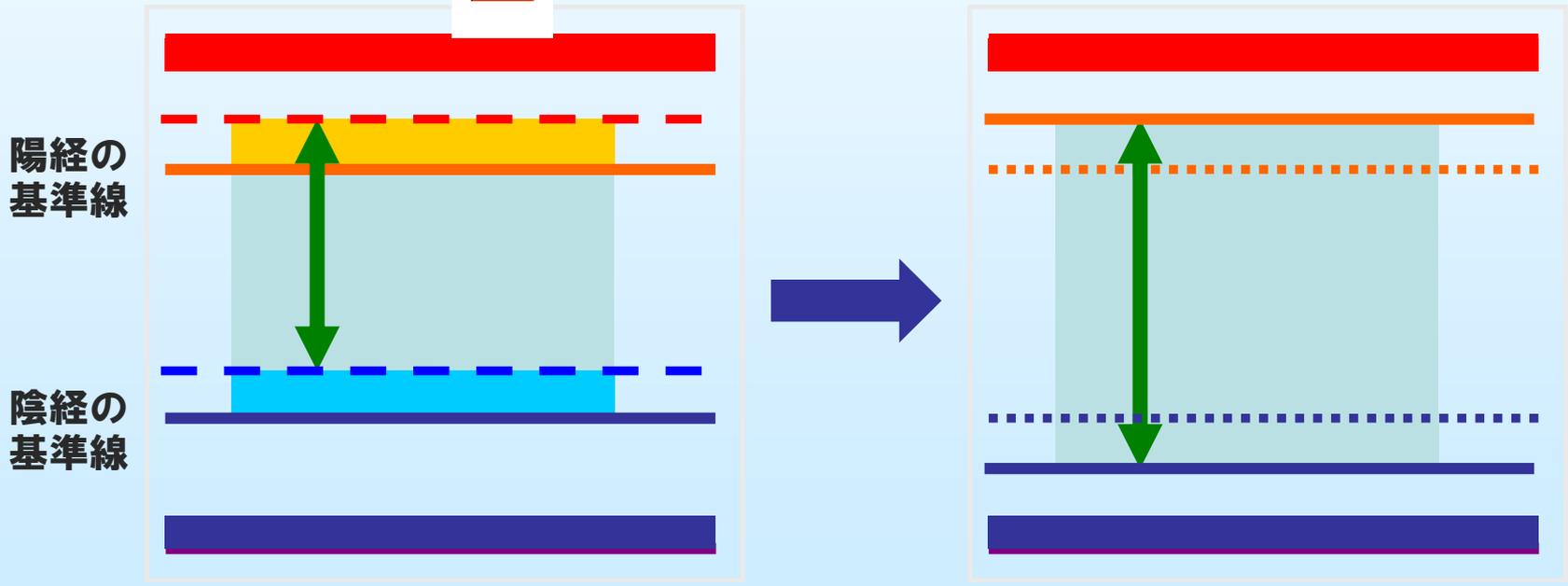
3 「虚」の場合

正常側の絡穴を押し、F-pointを補す。
→ 輔し続けたら 1 と同じになる。



A 輔する側の場合

- 4** 一方は「実」、一方は「虚」の場合
- ① 「虚」の絡穴を押し、F-pointを瀉す。
 - ② 「実」の絡穴を押し、F-pointを補す。
- **1** と同じになる

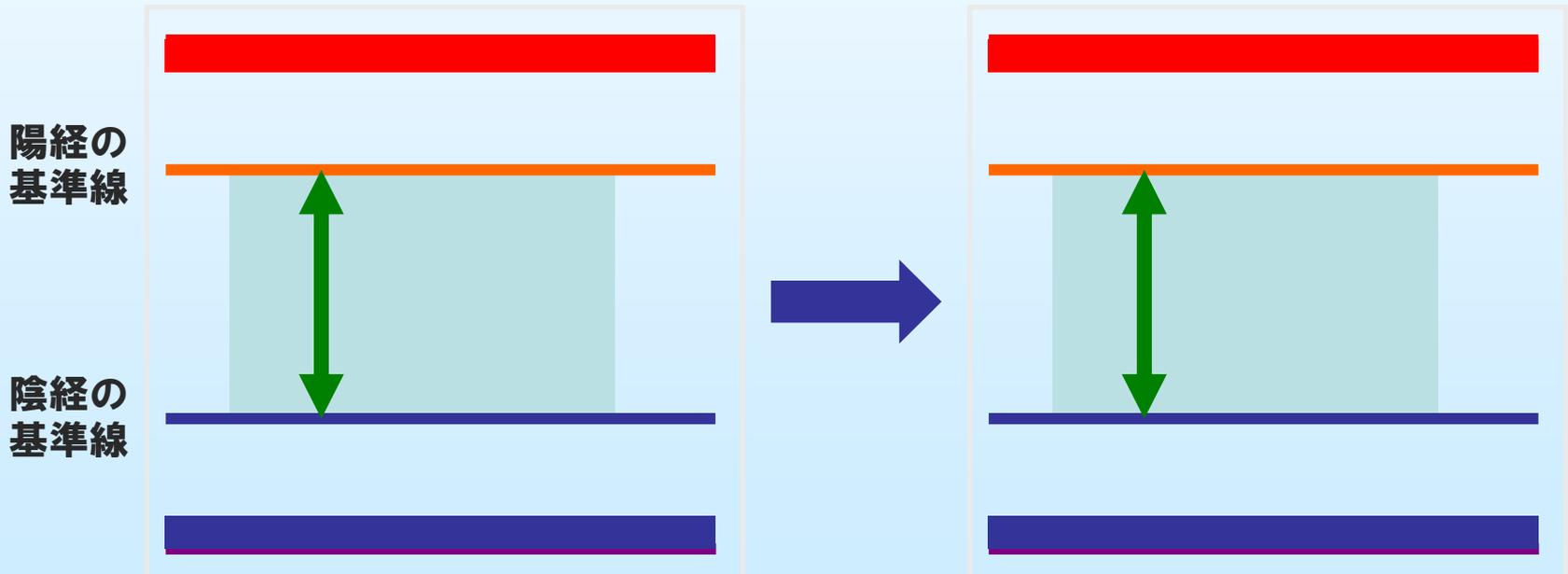


**輔する側が増強する場合、
輔される側はどう変化するか。**

B 輔される側の場合

1 正常の場合

変化なし

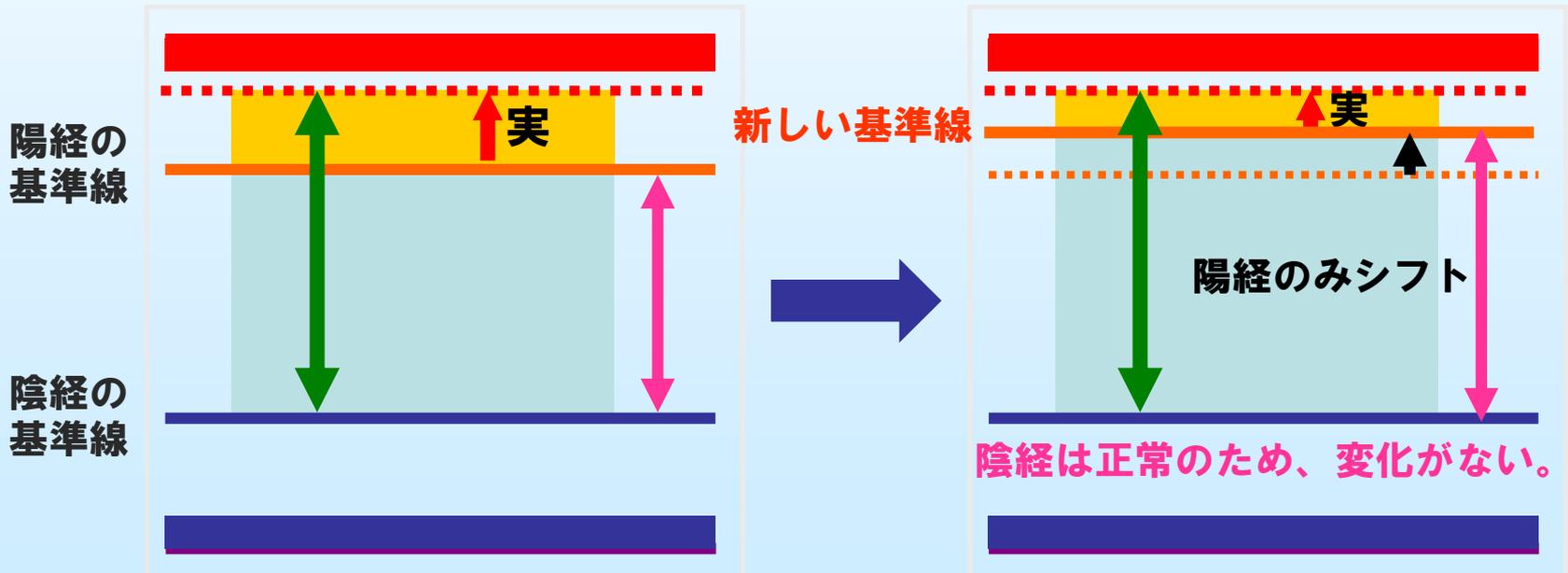


絡穴は押していてもライン間に直接の繋がりは無い

B 輔される側の場合

2 「実」の場合

実は減少する

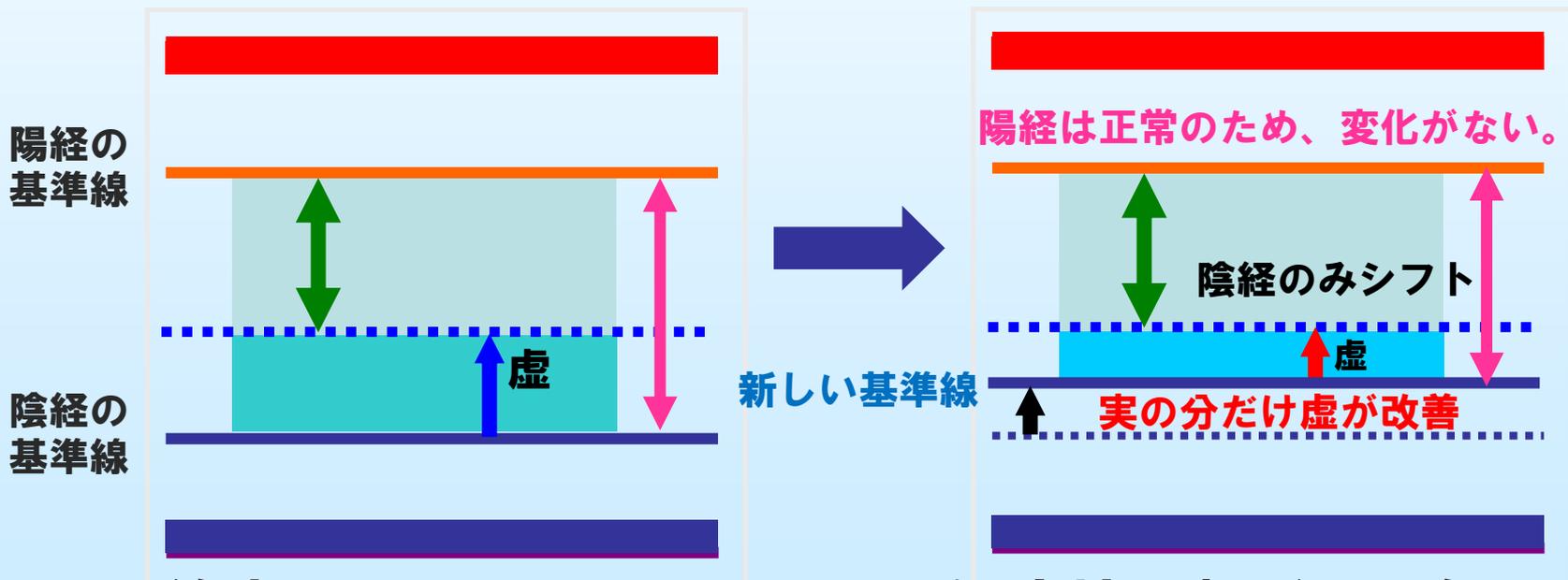


絡穴は押していてもライン間に直接の繋がりは無い

B 輔される側の場合

3 「虚」の場合

虚は減少する

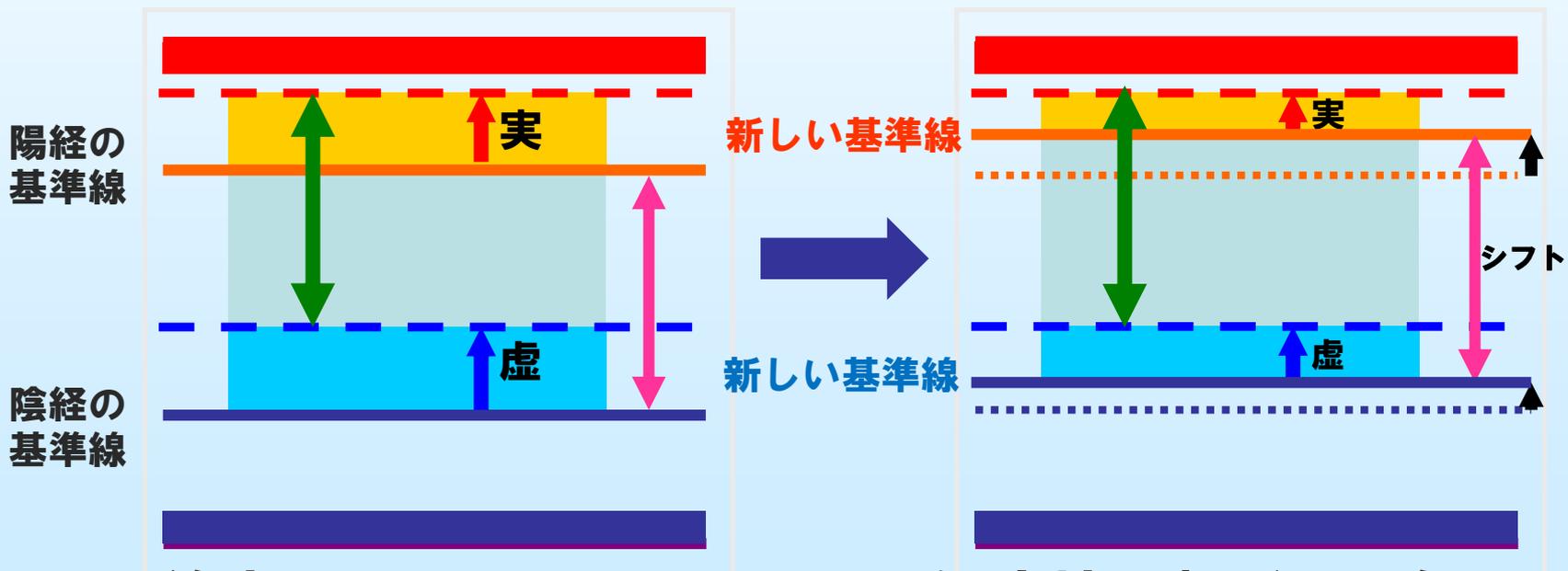


絡穴は押していてもライン間に直接の繋がりは無い

B 輔される側の場合

4 一方は「実」、一方は「虚」の場合

2と3の組み合わせから考えると、
「実」と「虚」は両方とも改善する。

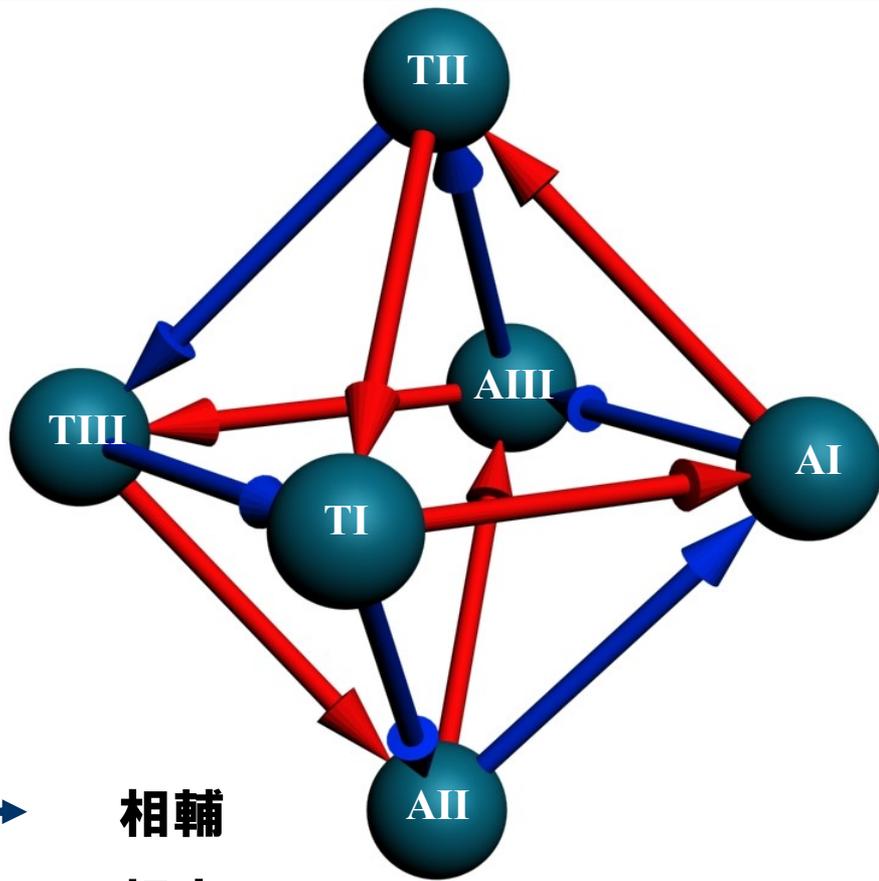


絡穴は押していてもライン間に直接の繋がりは無い

- **陰陽一方は実で一方は虚。**
相輔の場合、陰陽の実と虚の症状は**改善**。
- **陰陽とも実。**
相輔の場合、陰・陽の実症状は**改善**。
- **陰陽とも虚。**
相輔の場合、陰・陽の虚症状は**改善**。

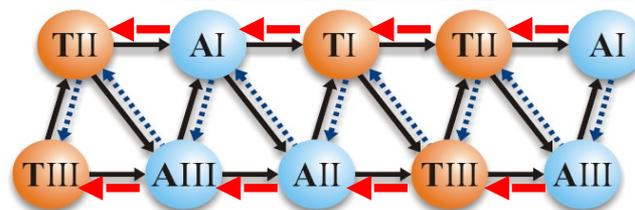
相 克

相輔・相克關係



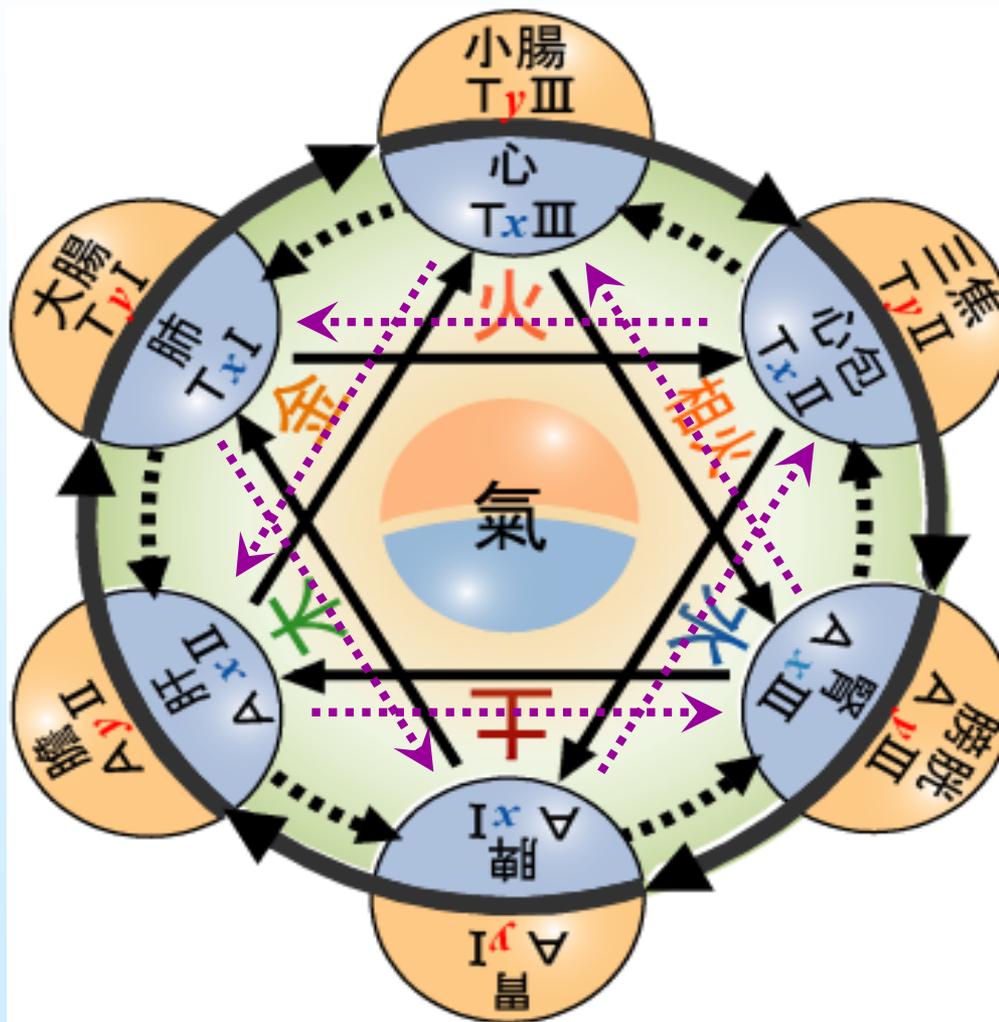
 相輔
 相克

相輔・相克關係



記号表記

遠絡相生・相輔・相克關係圖



相克

A 克する側

B 克される側

相克

A 克する側

B 克される側

A と **B** がそれぞれ、

1 正常の場合

2 「実」の場合

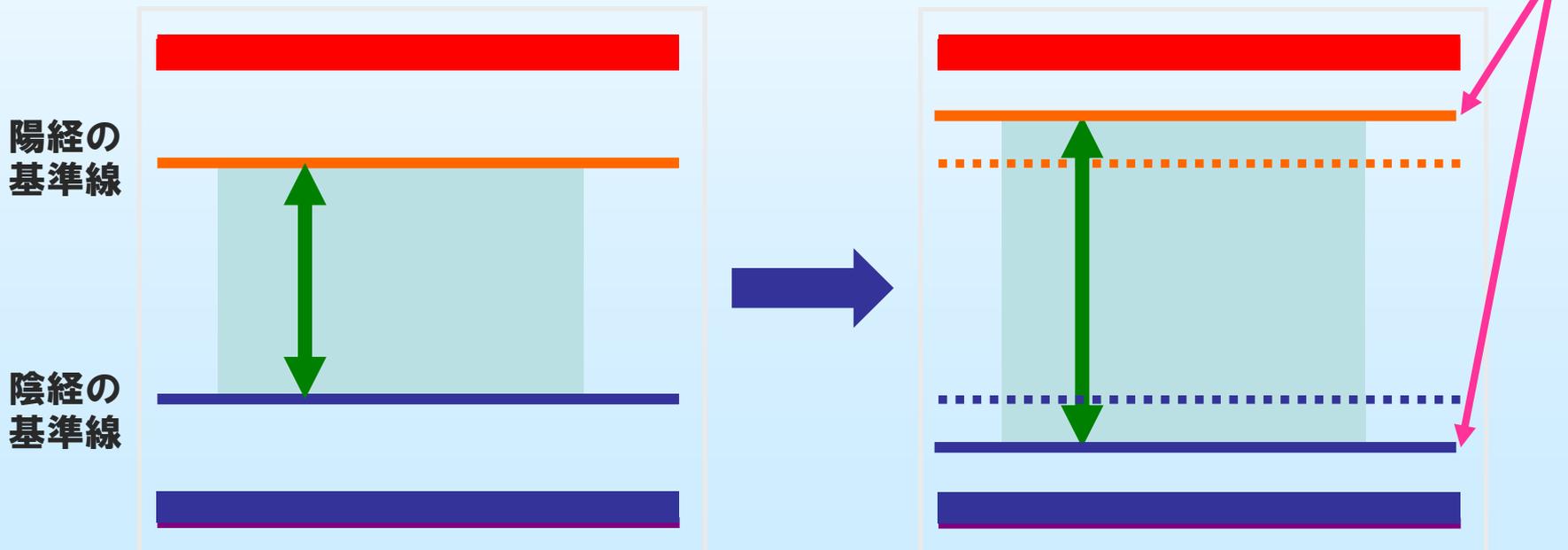
3 「虚」の場合

4 一方は「実」、一方は「虚」の場合

A 克する側の場合

1 正常の場合

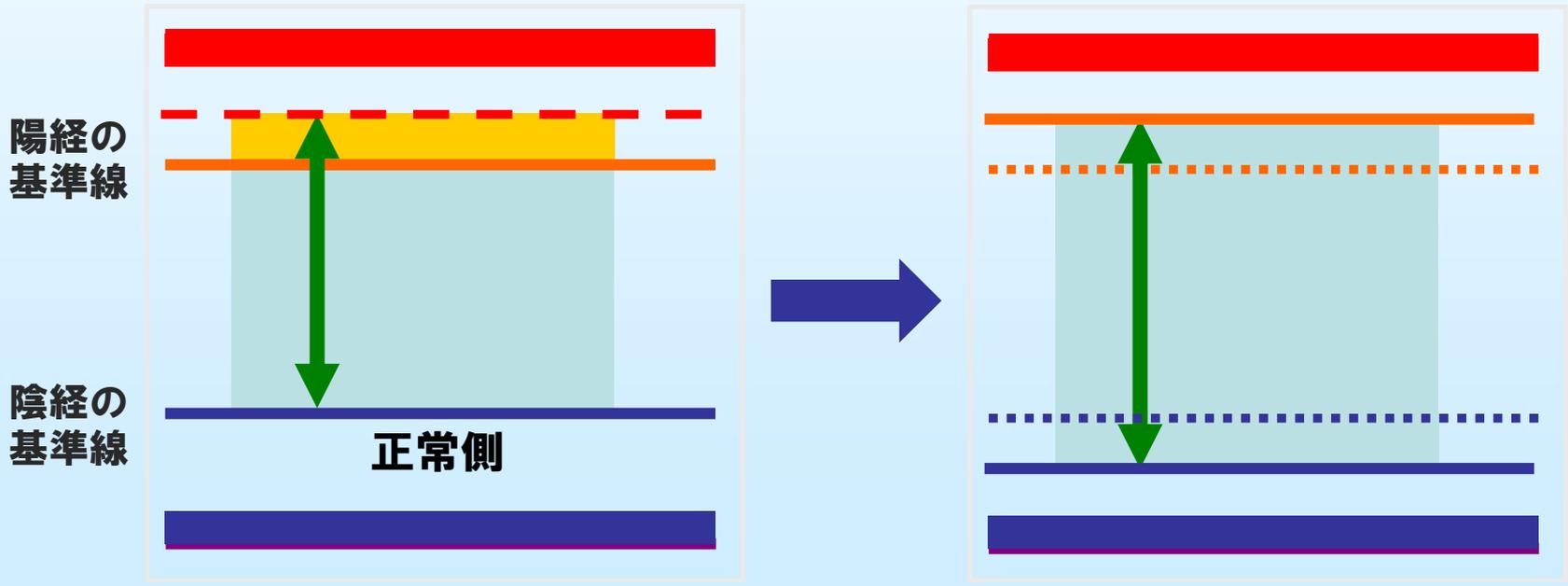
「陰」又は「陽」の絡穴を押しながら、
その「陰」又は「陽」のF-pointを補す。
→陰陽のラインが実側にシフトする。



A 克する側の場合

2 「実」の場合

- ① 正常側の絡穴を押し、F-pointを瀉す。 → 実が無くなる。
- ② 正常側の絡穴を押し、F-pointを補す。 → ①と同じになる。



A 克する側の場合

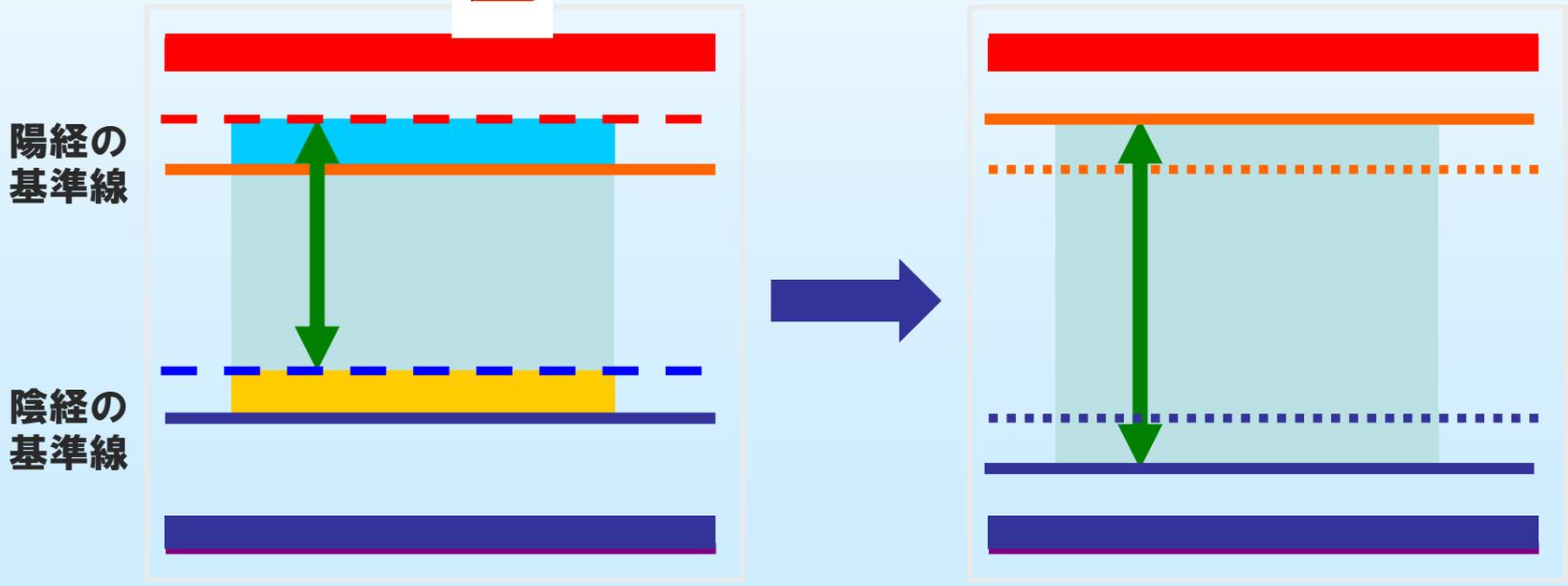
3 「虚」の場合

正常側の絡穴を押し、F-pointを補す。
→ 輔し続けたら 1 と同じになる。



A 克する側の場合

- 4** 一方は「実」、一方は「虚」の場合
- ① 「虚」の絡穴を押し、F-pointを瀉す。
 - ② 「実」の絡穴を押し、F-pointを補す。
- **1** と同じになる

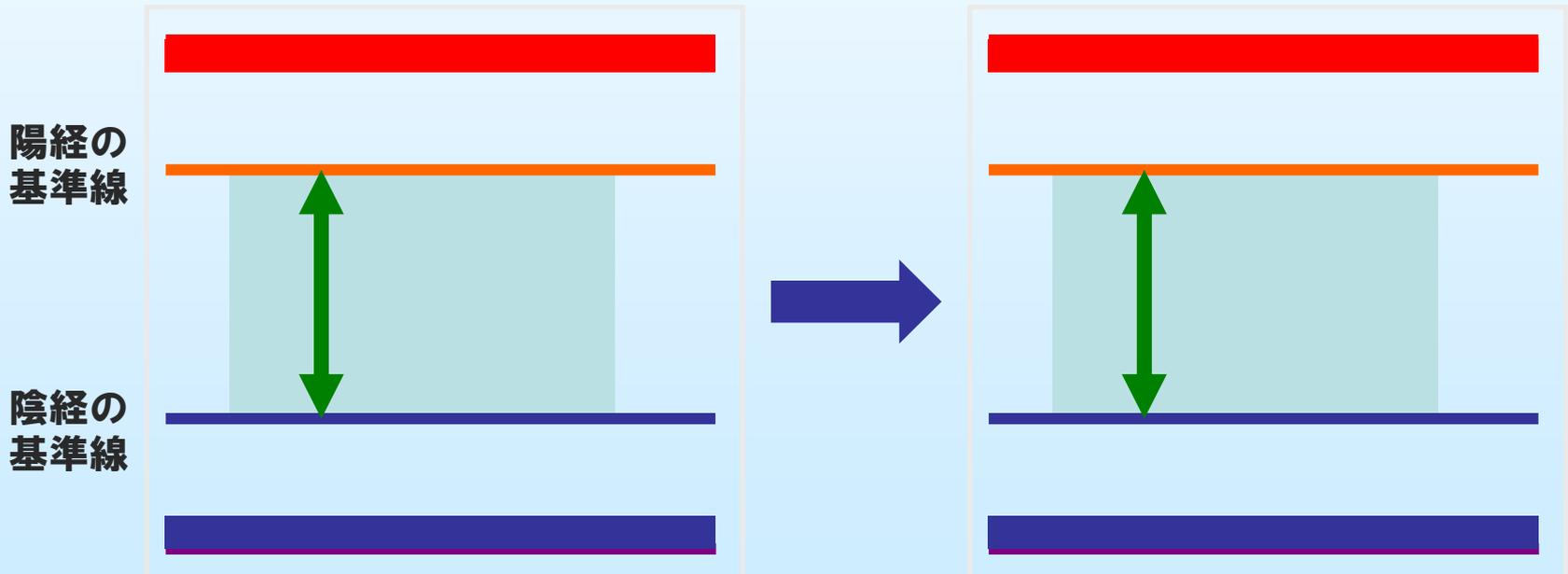


**克する側が増強する場合、
克される側はどう変化するか。**

B 克される側の場合

1 正常の場合

変化なし

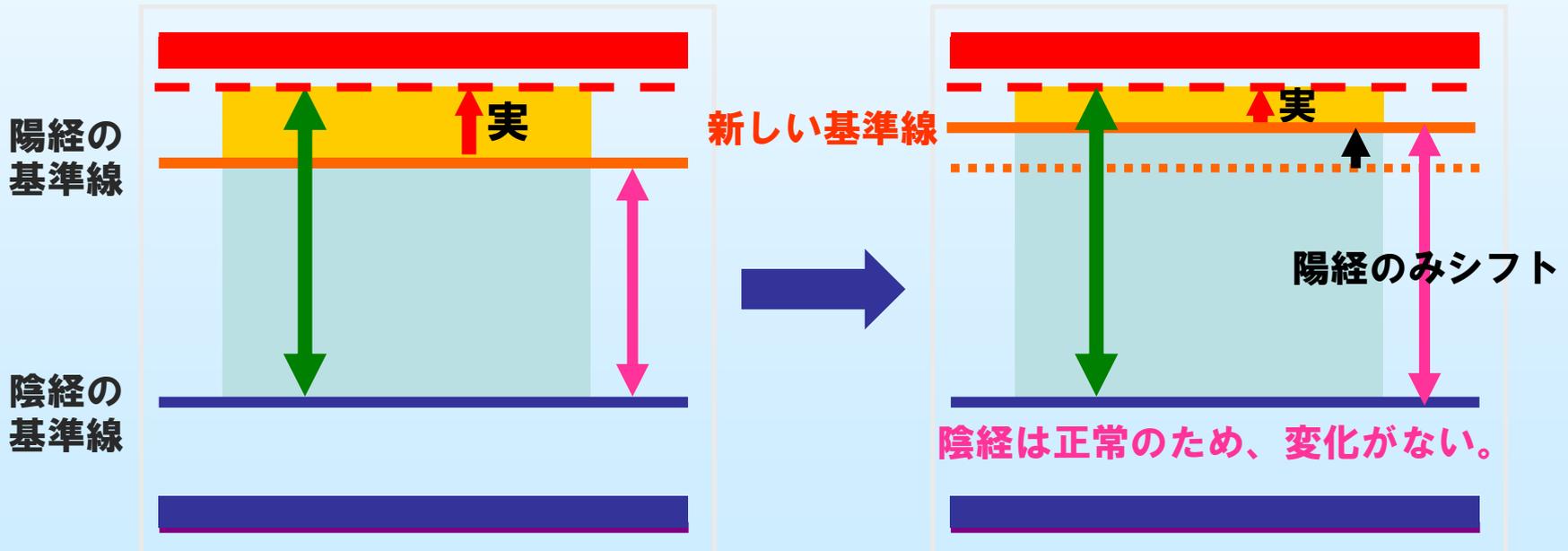


絡穴は押していてもライン間に直接の繋がりは無い

B 克される側の場合

2 「実」の場合

実は減少する

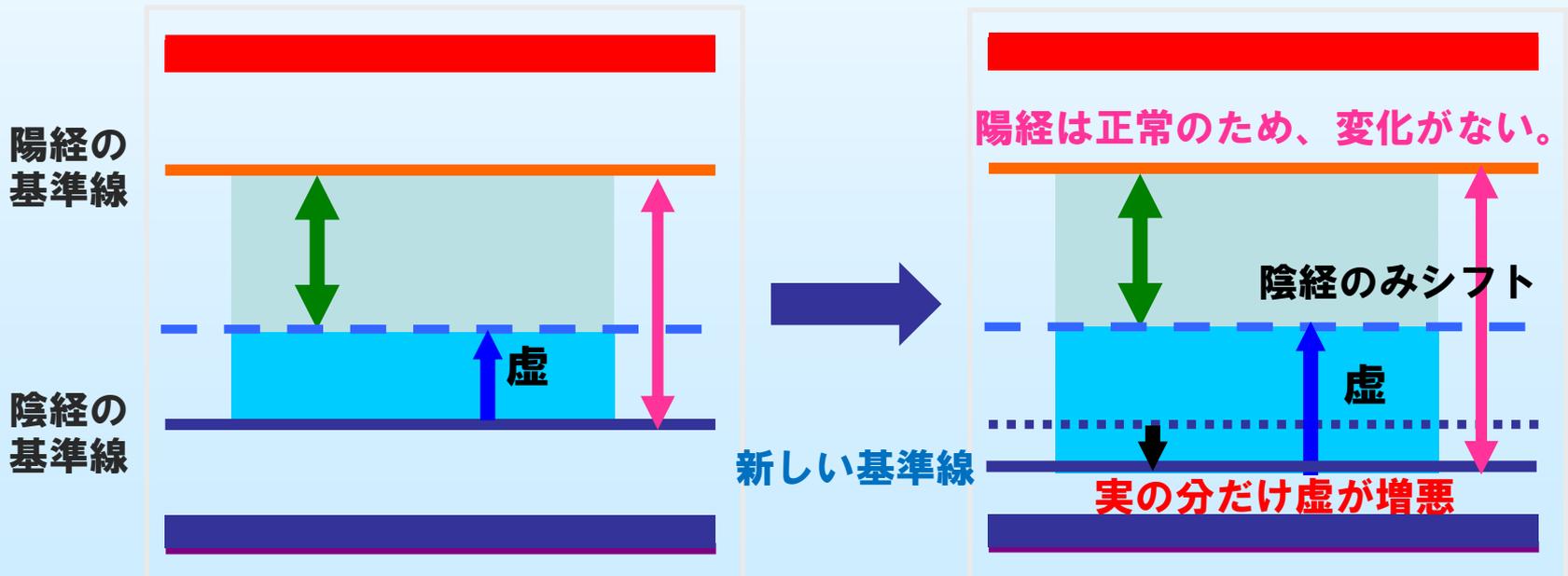


絡穴は押してもライン間に直接の繋がりは無い

B 克される側の場合

3 「虚」の場合

虚は増加する

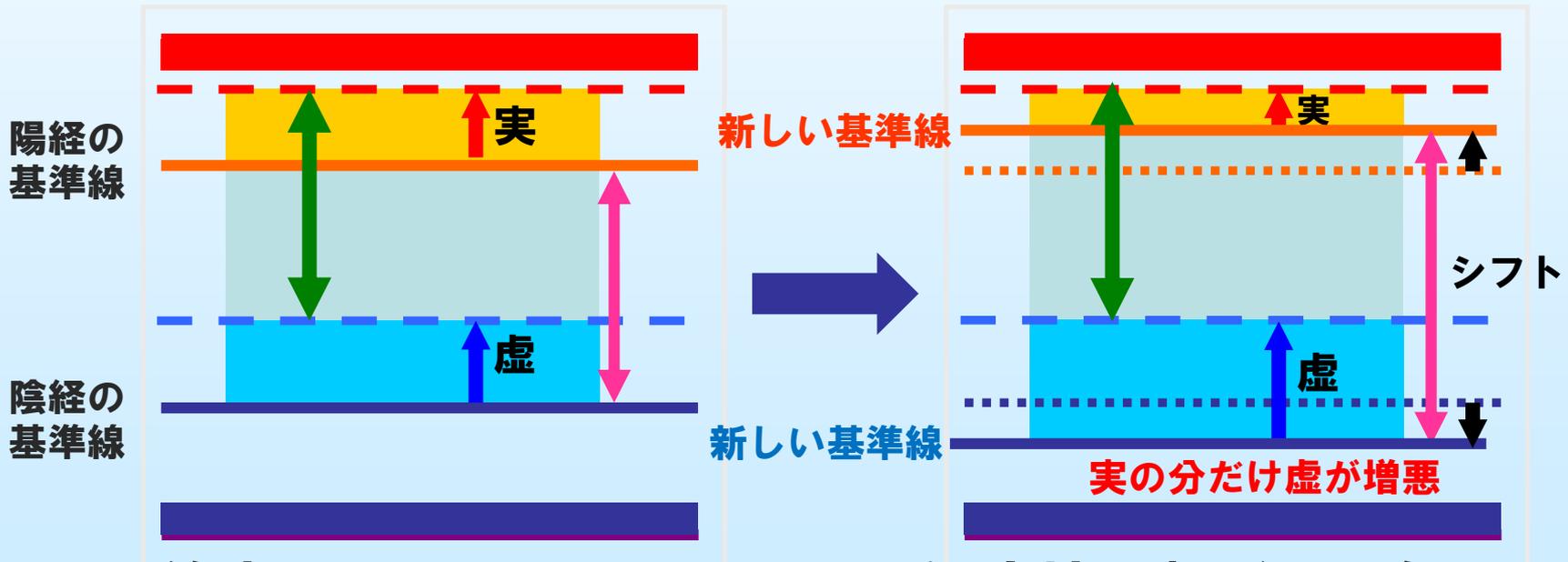


絡穴は押していてもライン間に直接の繋がりは無い

B 克される側の場合

4 一方は「実」、一方は「虚」の場合

2と3の組み合わせから考えると、
「実」は改善するが、「虚」は増加する。



絡穴は押していてもライン間に直接の繋がりは無い

- **陰陽一方は実で一方は虚。**
相克の場合、**実症状は改善。**
虚症状は増悪。
- **陰陽とも実。**
相克の場合、**両方とも実の方向へシフト。**
陰・陽の実症状は改善。
- **陰陽とも虚。**
相克の場合、**両方とも実の方向へシフト。**
陰・陽の虚症状は増悪。

遠絡医学的 病態解析の進め方

遠絡八卦圖

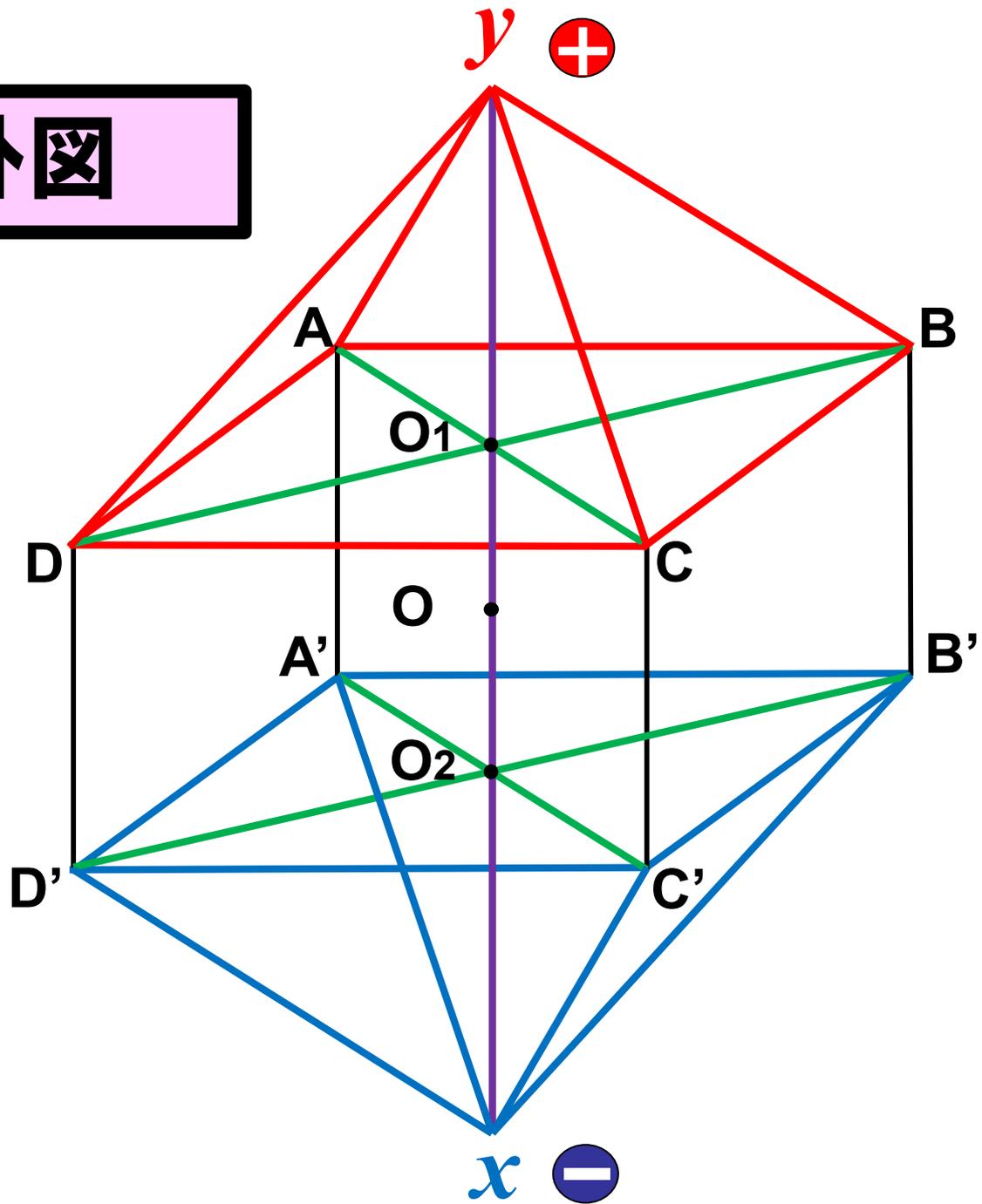
兩儀



四象



八卦



両儀と四象

両儀と四象の関係

相即関係 (例: yA)

相生: yx
相輔: AC
相克: DB

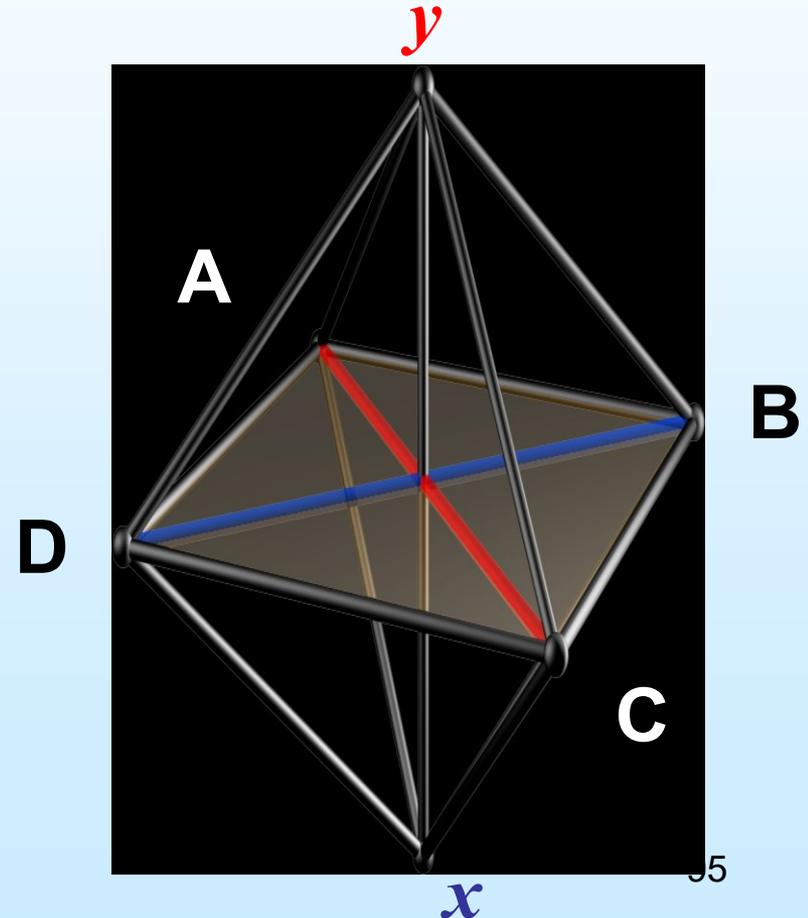
四象関係

相對相應関係 (例: AB)

2つの相對: AD(表裏)
BC(臟腑通治)
1つの相應: DC(遠絡同名)



6つの点 (縦に2点、横に4点)
12本の線 (横に4線、縦方向陽面4線、
縦方向陰面4線)
8つの面 (縦方向陽面4、縦方向陰面4)



症状から診断の手順

① 点

局所

横方向の点 (Spinal Nerve - AI, TI, AIII, TIII)

横方向の線 (Spinal Nerve - AII, TII)

② 線

縦方向の線 (Spinal Cord - AI, TI, AIII, TIII)

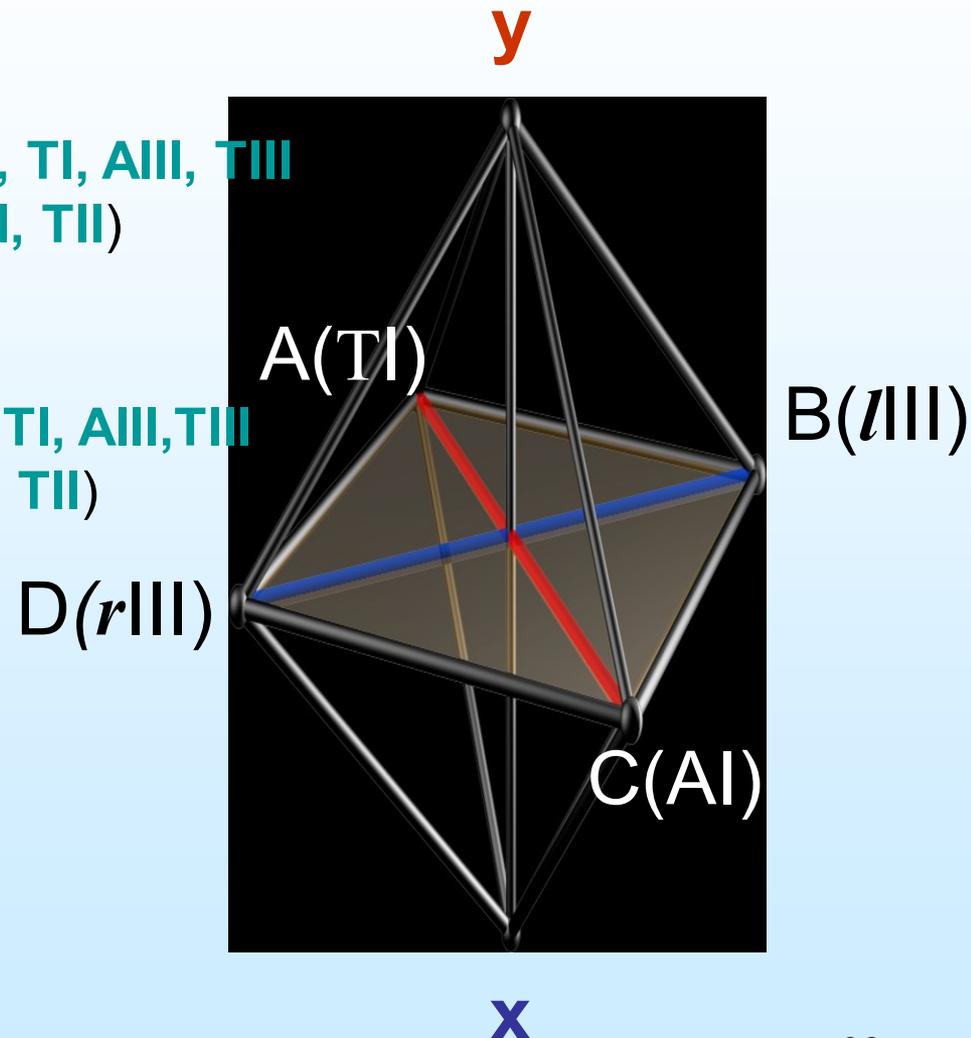
縦方向の点 (Spinal Cord - AII, TII)

縦方向の点と線 (Regional)

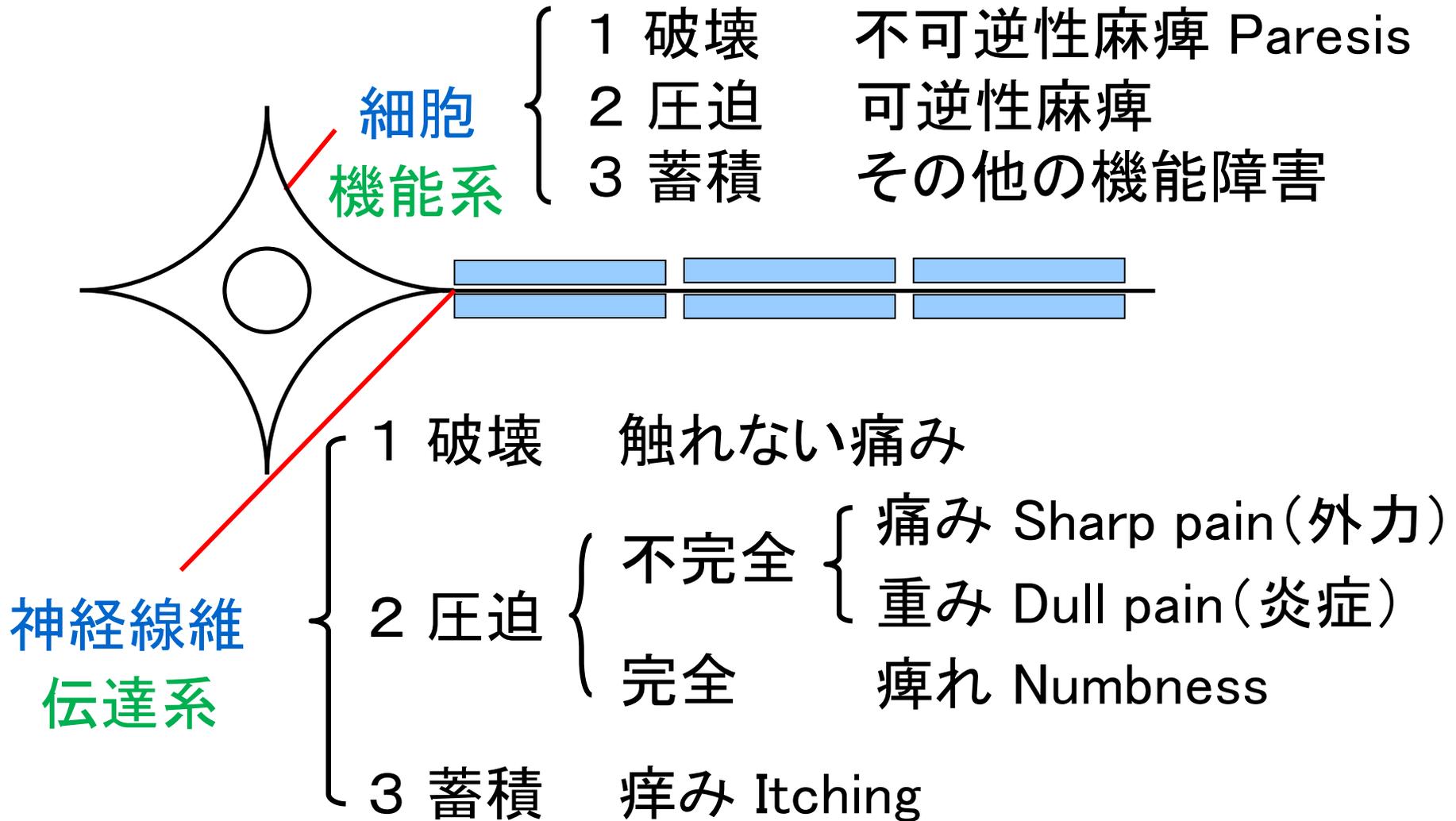
③ 面

上位脳 (同側手足)

下位脳 (両側手または足)



神経単位と症状の対比分類



症状から診断の手順

① 局所性

② 中枢性

局所性

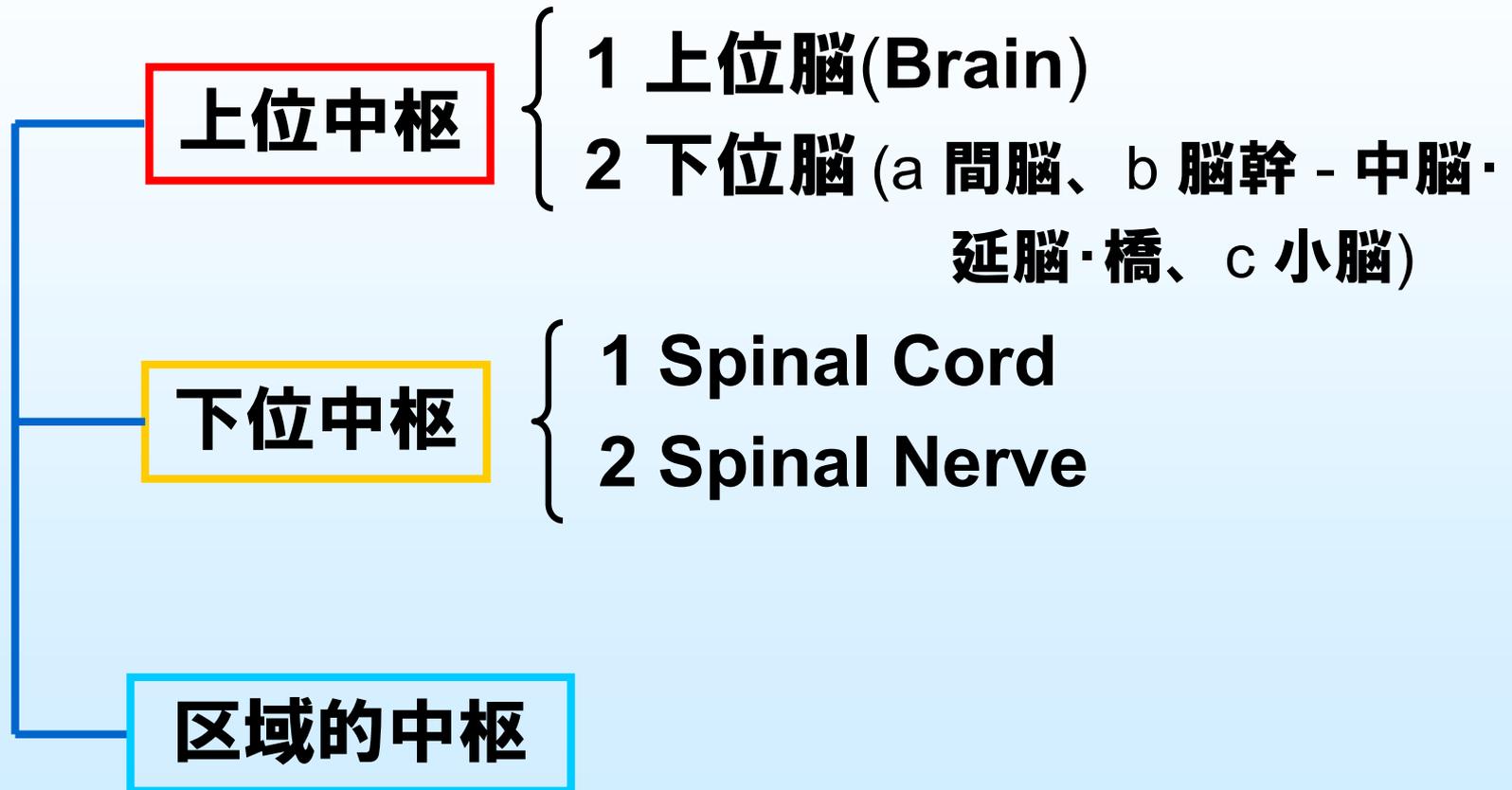
特徴

- (1) 痛みは片側性で、痛む原因が明確。**
- (2) 痛みの場所は特定できる。**
- (3) 痛みの発生に伴い、炎症が起こる。
(腫れ、痛み、発熱など)**
- (4) 四肢の痛みや重み、痺れなどの合併症状がない。**

中枢性 分類



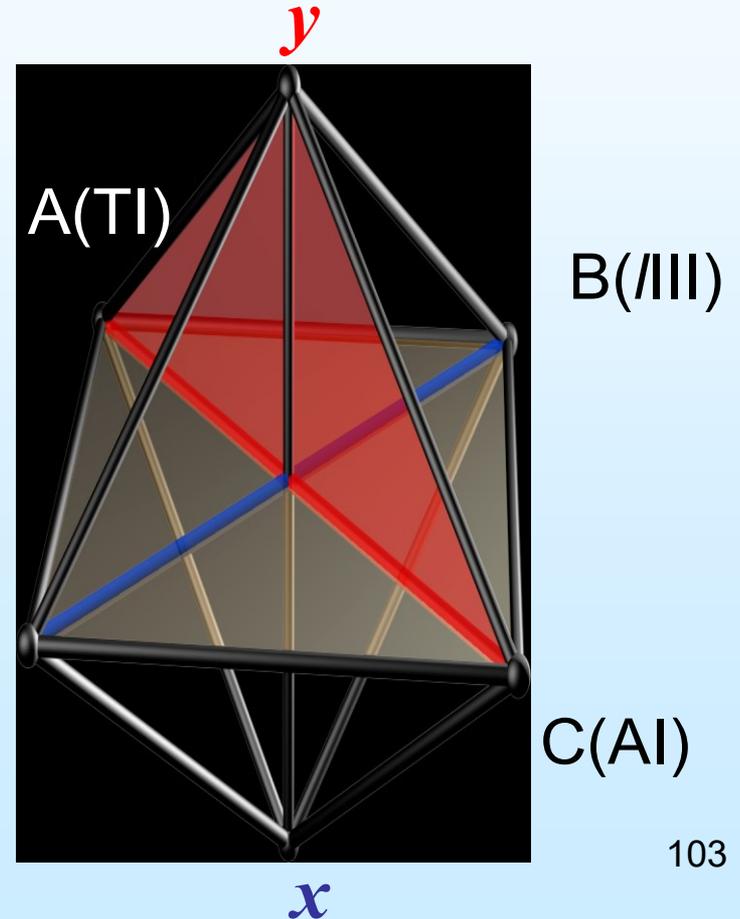
中枢性 分類



上位中枢

上位脳

6つの点 (縦に2点、横に4点)
12本の線 (横に4線、縦方向陽面4線、
縦方向陰面4線)
8つの面 (縦方向陽面4、縦方向陰面4)



無極

太極

兩儀

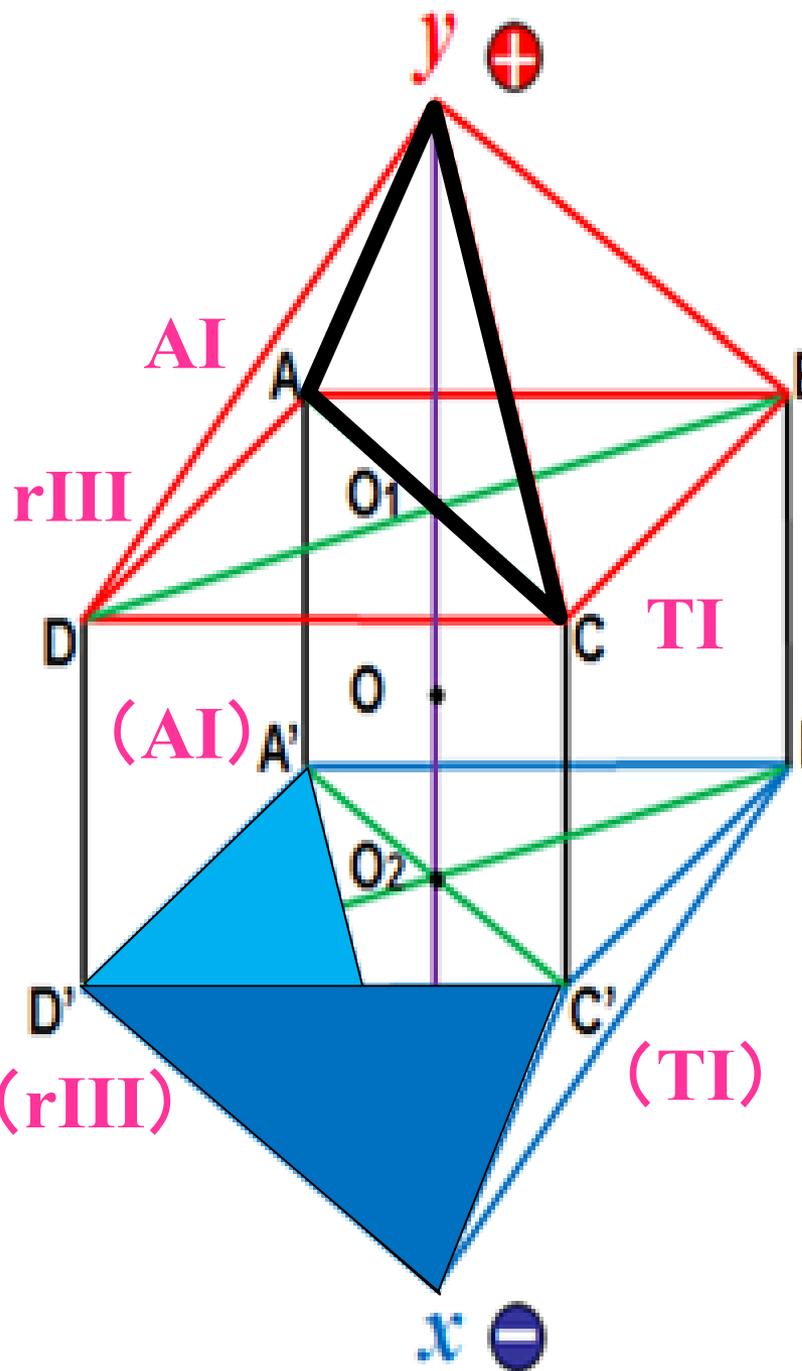
四象

八卦

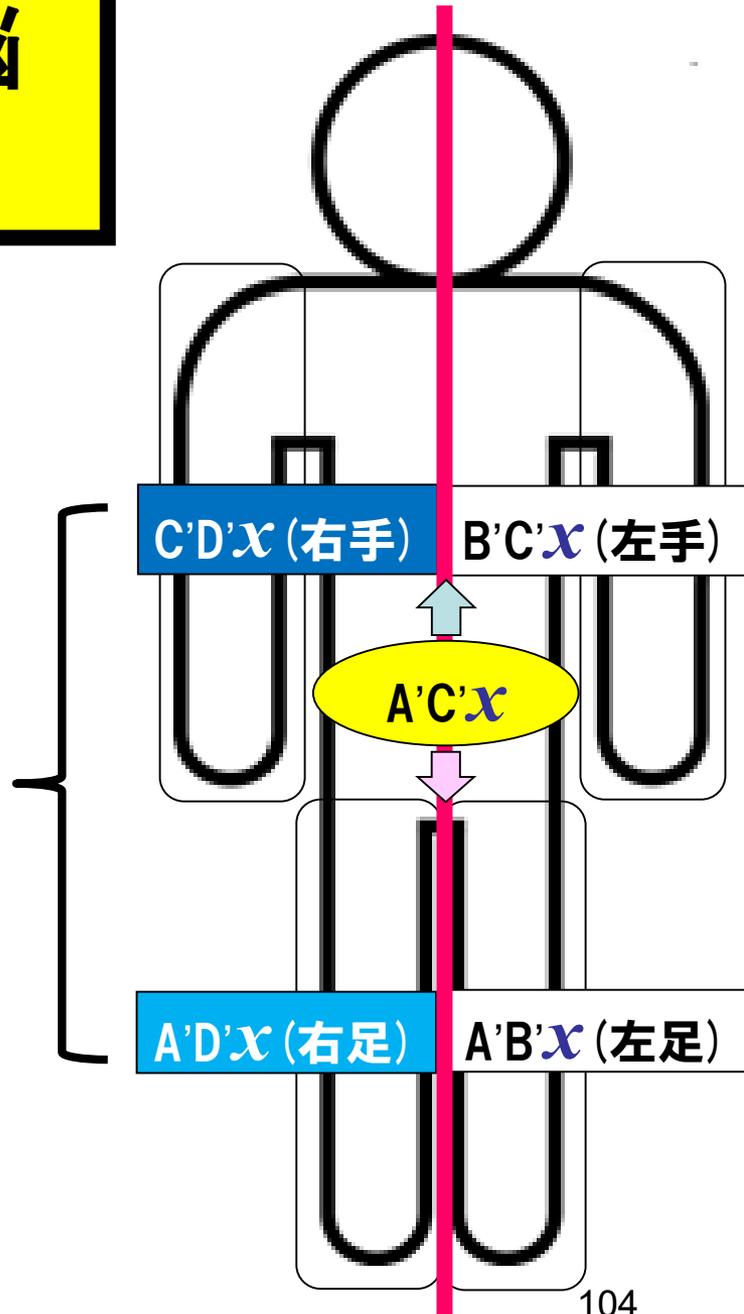
上位脳 (面yAC)

面xDAと面xDC
面xBAと面xBC

上位脳
 yAC



同側上下肢の症状



下位脳

6つの点(縦2、横4)
12本の線(横4、縦陽4、縦陰4)
8つの面(縦陽4、縦陰4)

無極

太極

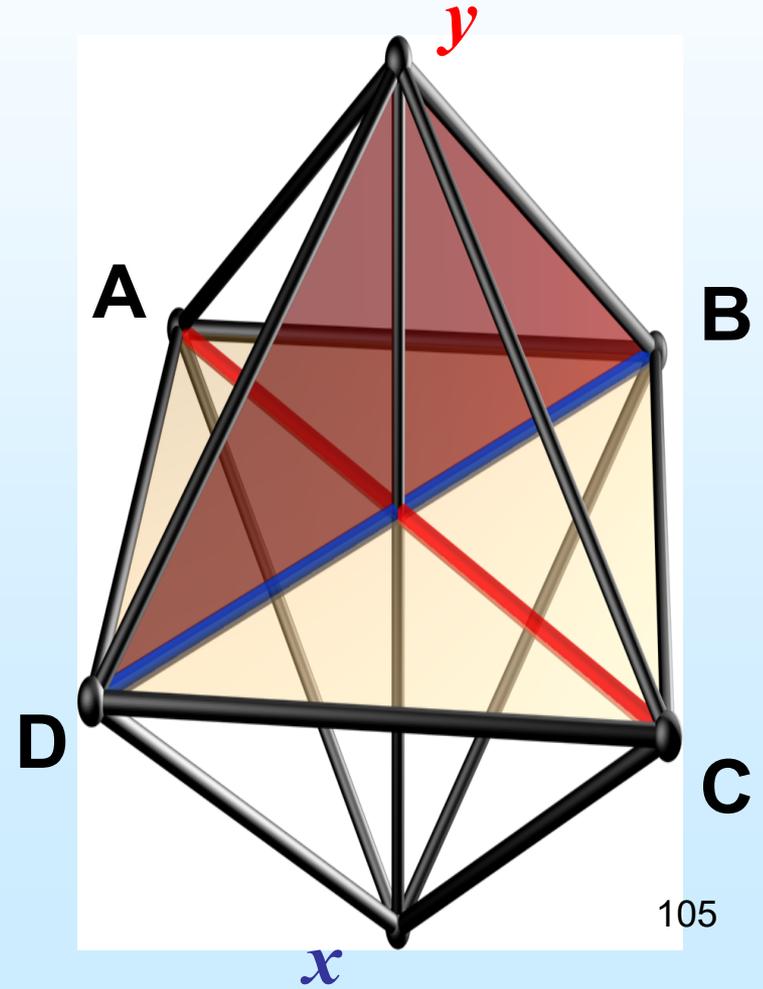
両儀

四象

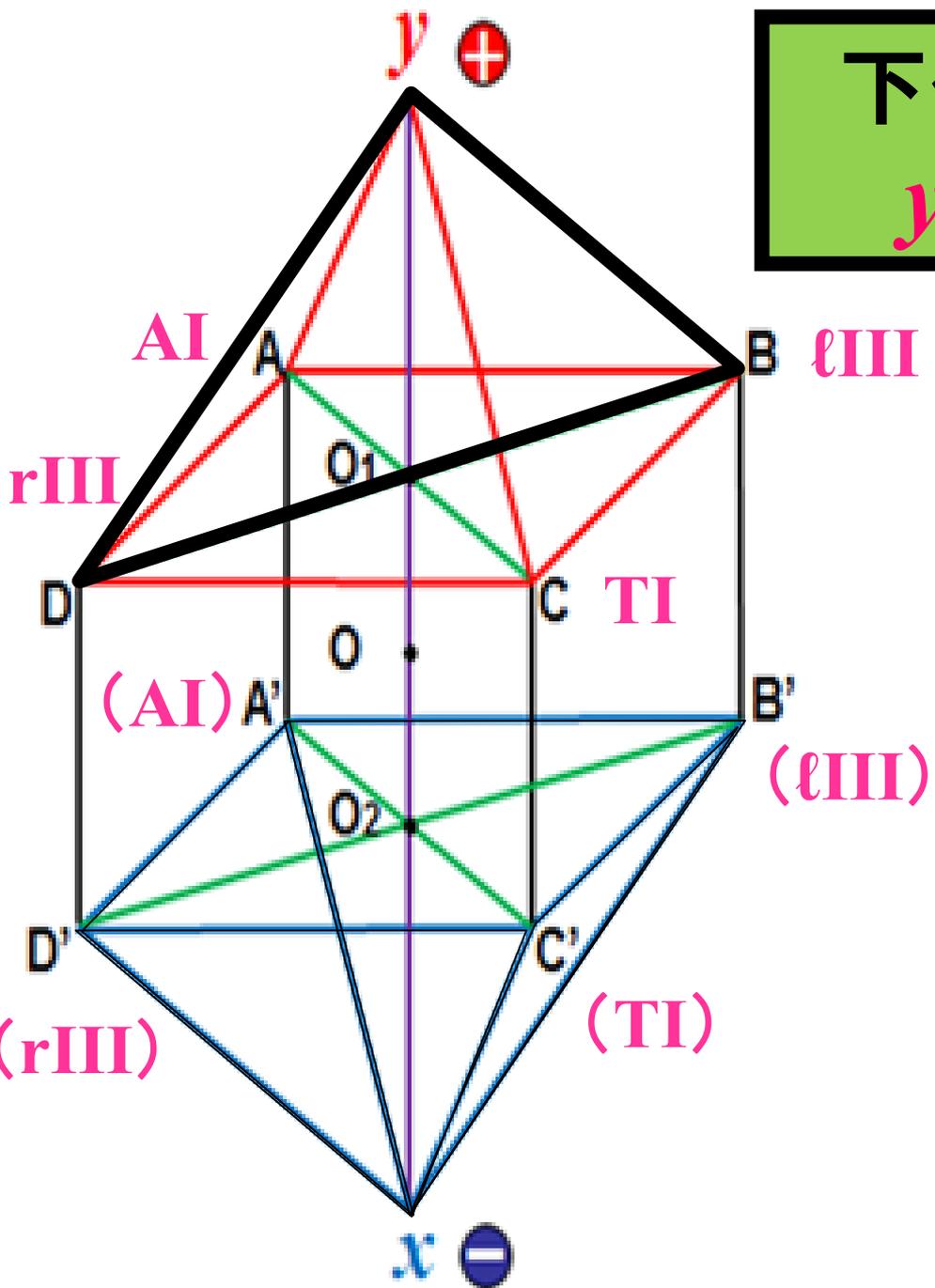
八卦

下位脳 (面yDB)

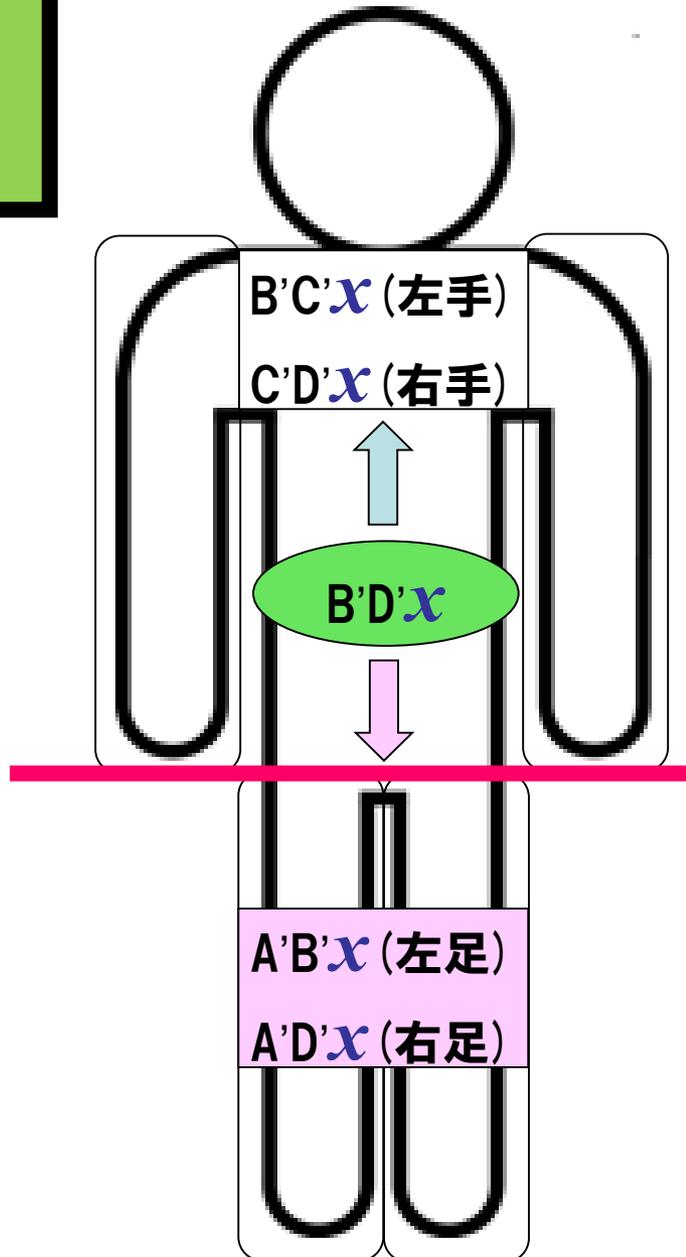
面xDCと面xBC
面xBAと面xDA



下位脳
yBD



両上肢又は両下肢の症状



下位中枢

Spinal CordとSpinal Nerve

Spinal Cord (縦方向線の関係)

$$yO \leftrightarrow \left\{ \begin{array}{ll} yA & xA \\ yB & xB \\ yC & xC \\ yD & xD \end{array} \right\} \leftrightarrow xO$$

無極

太極

両儀

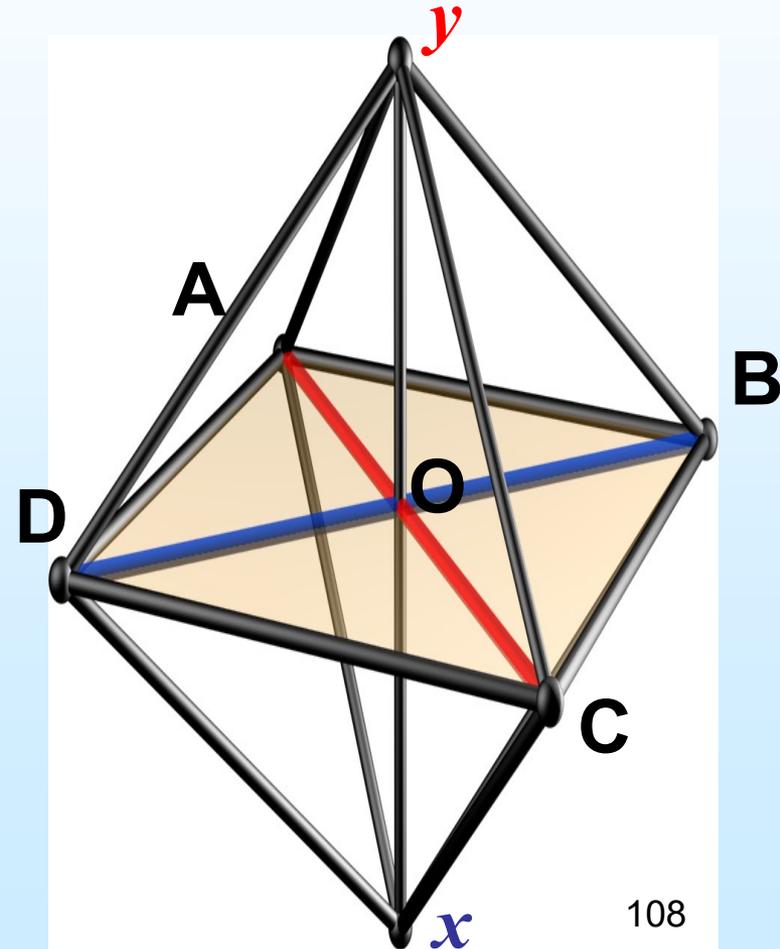
四象

八卦

Spinal Nerve (横方向点の関係)

$$\left. \begin{array}{l} \text{点A} \\ \text{点B} \\ \text{点C} \\ \text{点D} \end{array} \right\} \leftrightarrow \text{点O}$$

6つの点(縦2、横向)
 12本の線(横4、縦陽4、縦陰4)
 8つの面(縦陽4、縦陰4)



遠絡八卦圖

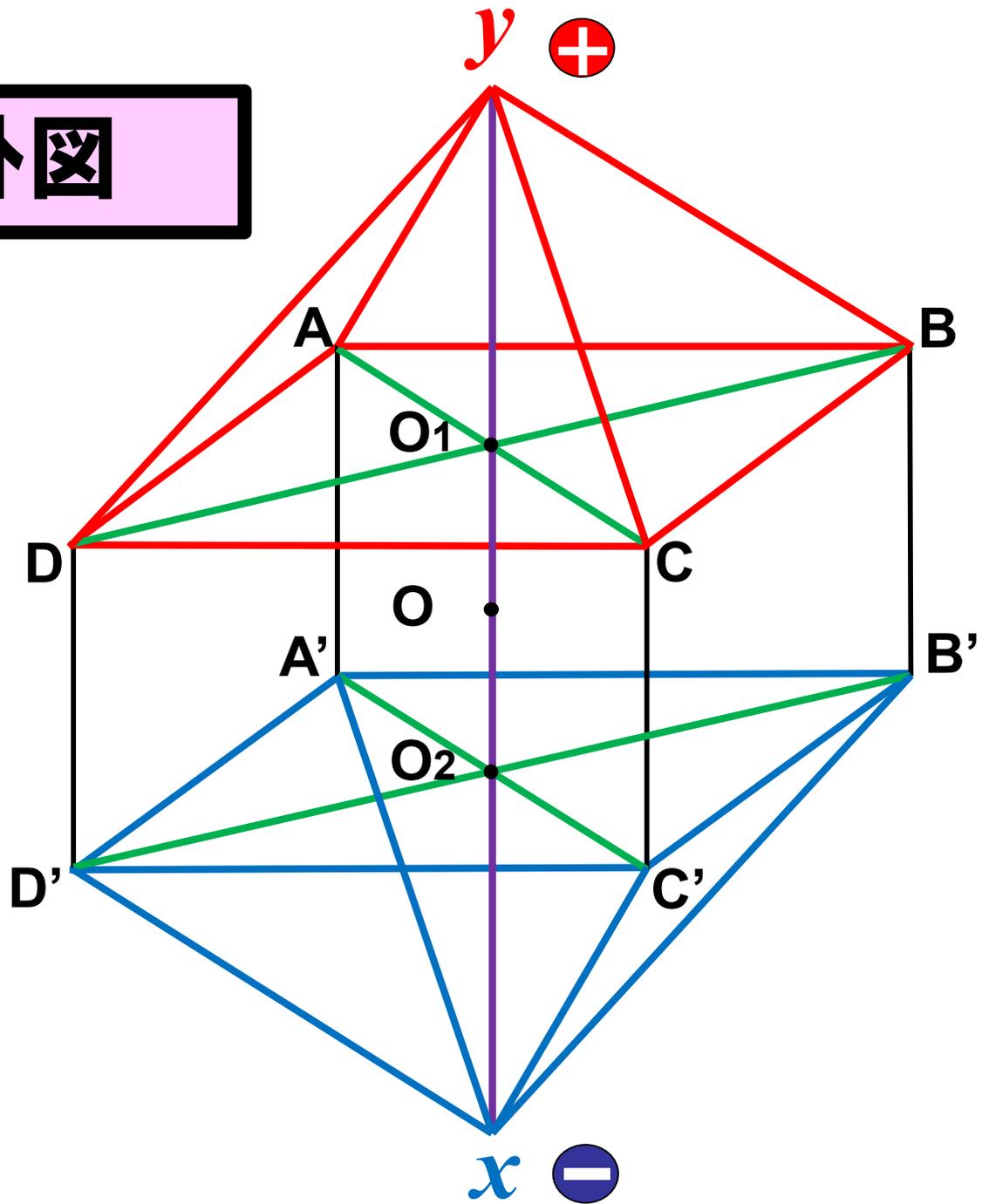
兩儀



四象



八卦



① 点

局所

横方向の点 (Spinal Nerve - AI, TI, AIII, TIII)

横方向の線 (Spinal Nerve - AII, TII)

② 線

縦方向の線 (Spinal Cord - AI, TI, AIII, TIII)

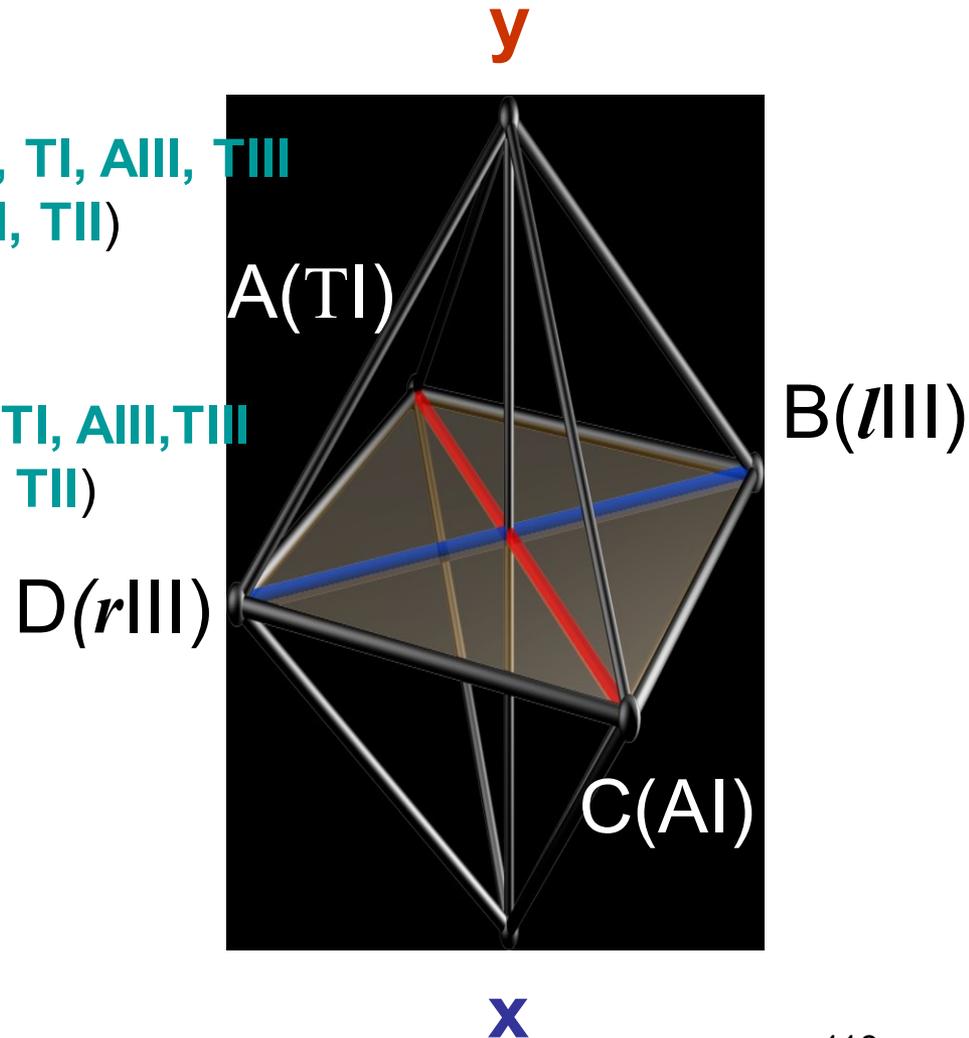
縦方向の点 (Spinal Cord - AII, TII)

縦方向の点と線 (Regional)

③ 面

上位脳 (同側手足)

下位脳 (両側手または足)



c+d

bc

a

bc

a

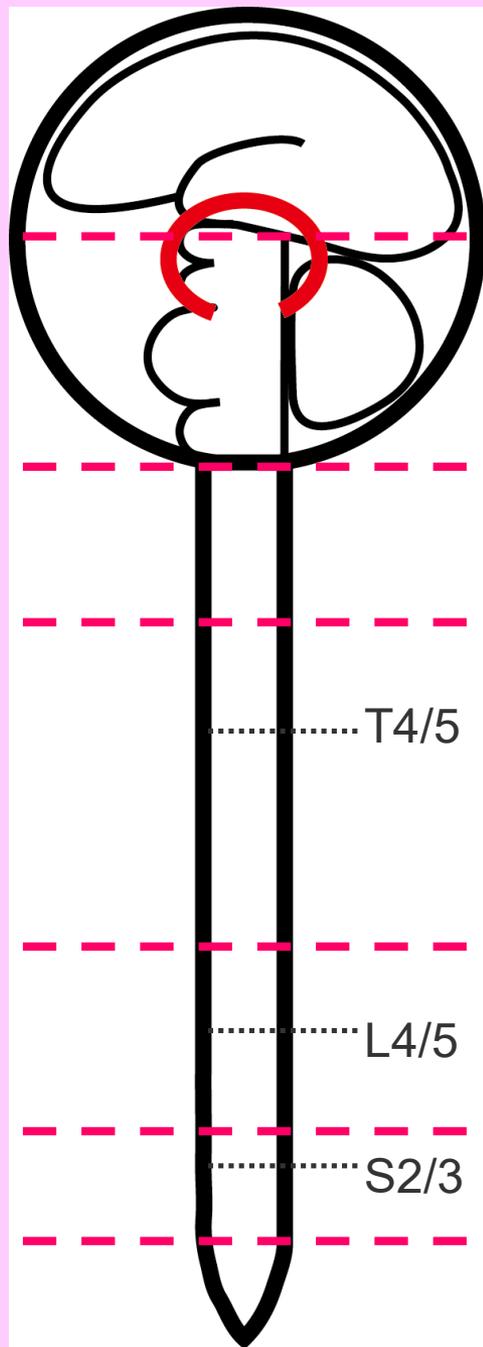
bc

c+d

bc

c

c



上位脳

視床

下位脳

C1 atlas

C-spine

C7 / T1

T4/5

T-spine ~ L2

L4/5

L3 ~ S1

S2/3

S2 ~ S5

尾椎・陰部